

目要授教操體校學正
說解戲遊進行



校學範師子女·校學女·校學小



行發 堂 美 成 京東



0047639-000

276-726

唱歌行進遊戲解說

学校体育研究会·編

成美堂

昭11

AHH



唱·歌·行·進·遊·戲·解·說



編會究研育體校學

京 東

版 堂 美 成



276
726

序

唱歌遊戯行進遊戯は體操科に於て最も問題になり易い教材である。この教材が特に問題視されてゐたところの一つは「ダンス」と云ふ名稱によつて、社交ダンス、藝術ダンスに走り易い點にあり、問題視されてゐた他の原因は、果してこれが體育として成立するか否かの點であつた。

然るに今回改正されたる要目は、此の事に對する根本的解決を與へた。即ち、要目は此の教材が所謂純粹ダンスでもなければ、藝術ダンスそのものでもなくして、體操科の教材であると云ふところに於て一つの解決點を與へ、同時に、この教材の本來の發展過程を考察して、この教材独自の特質を體育的に活用したのである。

従つて、本書に於ては、此の教材が體育材たり得る所以を明かにし、藝術ダンスとの限界を明瞭にし、更にこれが女子特有の教材となり得る根本

理由を説明し、全體として體育的立場を取りつゝ、新に公にされた唱歌遊戯・行進遊戯の最も妥當にして體系的なる解説を與へ、それに全部の樂譜をも網羅したのである。これによつて小學校・女學校・女子師範學校に於ける該科擔當者に指導の根據と、實踐の手引をいさゝかなりとも與へ得ることが出来るならば、編者の最も欣幸とするところである。

昭和十一年六月

編者 識

小學校・女學校
女子師範學校 唱歌・行進遊戯解説

目次

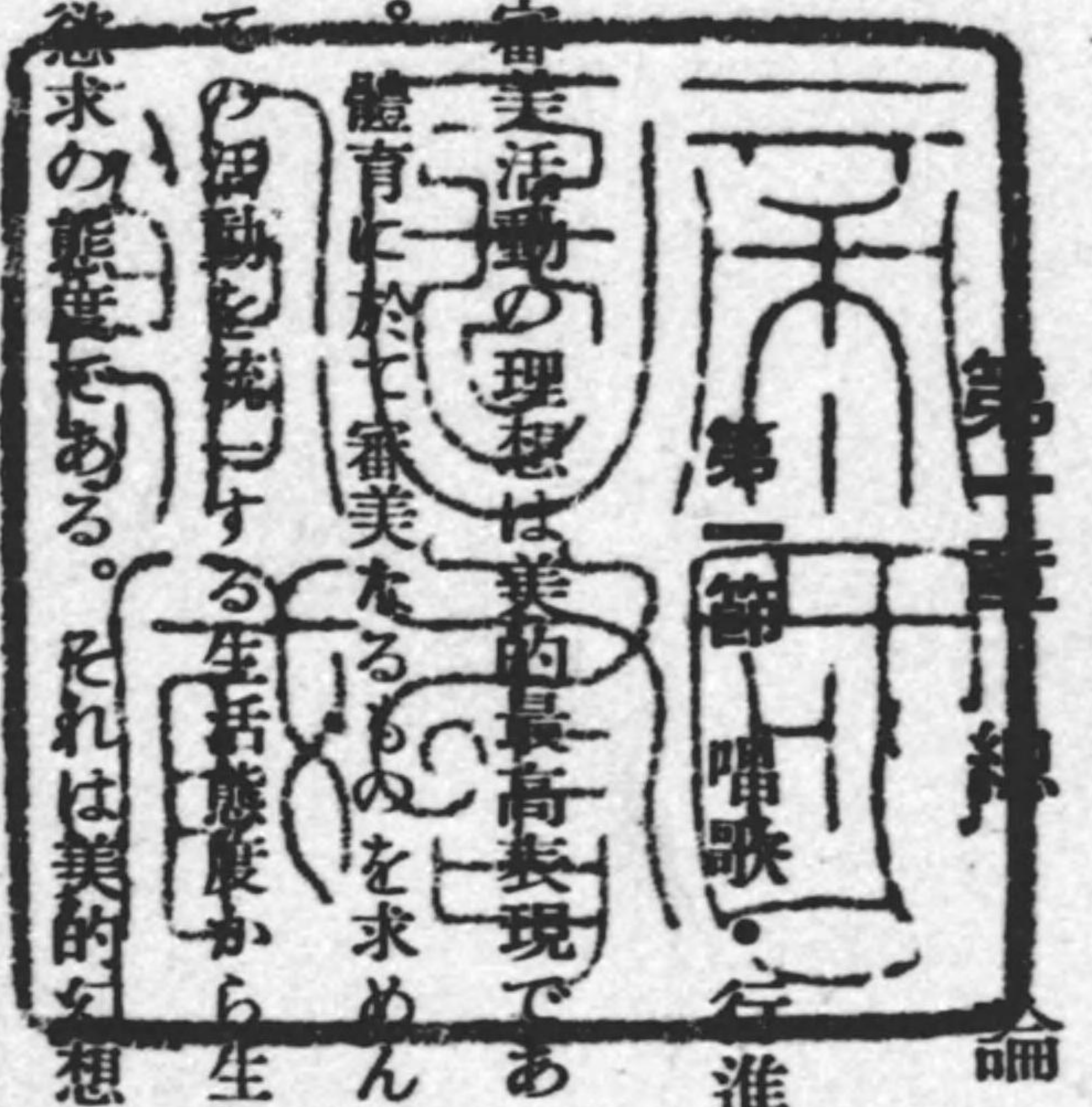
第一章 總論	一
第一節 唱歌・行進遊戯のよりどころ(特性)	一
第二節 唱歌・行進遊戯と藝術ダンスとの相違點	六
第三節 唱歌遊戯と行進遊戯との違ひ	八
第四節 女子と此の教材との關係	九
第二章 基本練習	二二
第一節 基本歩法	二三
第二節 基本態勢	三三
第三節 應用態勢	三四

第三章 唱歌遊戯……………三七

第四章 行進遊戯……………一〇二

附録 樂 譜
 —各學校各學年教材用(全)—

小學校・女學校
 女子師範學校 唱歌・行進遊戯解説



審美活動の理想は美的最高表現であつて、それは先づ魂そのもの、美的形成を前提としてゐる。體育に於て審美なるものを求めんとする活動はこのやうな内的形相に向ふ努力を中心として凡ての活動を統一する生活態度から生れる。従つて美を求めんとする體育の根本的特質は第一に無欲求の態度である。それは美的理想と名づけられ奇しき働きによつて、生きんが爲めの痛々しい焦慮や、それに伴ふ生物學的快苦を打忘れ、所謂恩讐の彼方に美しい人生と世界とを見出すことである。この態度は美を求めんとする體育を生物學的・醫學的體育から區別する特質であつ

第一節 唱歌・行進遊戯のよりどころ(特性)

て、體育の一般に通ずる法則や抽象的な理論を少しも語らないで、具體的な直觀的な形相として之を捉へて身體的に表現しようとする。蓋し藝術活動の本領は事象を入魂靈化することであつて、而も魂は分析し抽象した要素や法則の中にあるのではなくして、まとまつた具體的な個々の存在に宿るからである。

審美的體育では先づ人體の構造とか、人體の組織に就いての理論的考察を嫌つてゐる。その理由はみづ／＼しい具體の人間を血もなく涙もない概念の框にまで枯らしてしまふからである。併し乍ら、造形美術に於て解剖學を必要とするやうに、又ボーデやダルクローズが優れた教育者であつたやうに、理論的勞作も審美體育の補助として又は前階として必要である。われ／＼は身體的に表現せんとする活動の理論が少くとも藝術的創作と鑑賞に對して、何等かの利益するところがあることを、否定するわけには行かない。次に審美體育では、自然に對して分析的、抽象的態度を斥けて寧ろ神話的・靈化的な考へ方に傾かんとする。自然を因果關係からながめ、機械的に見ると云ふ立場は近代自然科学の根柢であるが、自然の有機的目的觀は更に長く深き傳統を持つて思想である。少くとも有機的自然だけは、ベルグソンを待つまでもなく、因果的機械觀を以つて

説明することの出来ない對象である。審美體育はかゝる有機的自然即ち動物や植物に入魂作用を行つてそれが何等かの目的によつて動いてゐると見るのみならず、更に無機的自然現象にまで感情を輸入して、吹く風や逝く水や空飛ぶ雲の影などに語り訴へる如く表現するのである。

審美體育の全體を統轄する原理は調和である。即ち表現せんとする心の働きがリズムに合し平衡を保ち、偏狭と極端とに墮せざることである。蓋し審美體育の本領は自然美に合し、藝術美の鑑賞若くは創作にあり、而してその根源は精神美にあり、精神美とは諸々の心的機能がよく調和し、各種の慾望が調和を保つことに外ならない。

審美體育はかくの如き態度によつて、身體表現を求める。例へば「藝術ダンス」は精神的・心意的な律度を身體律動として表現する。而して身體律動によつて心意的・精神的まとまりを表はし、これによつて心情の發展を求めようとするのである。従つて心に映する自然崇高なる統一の姿を最もよく表現し、その表現によつて更にまことの統一をしみ／＼と味ふのである。中庸を以て信條とするが故に心と身體との全き調和を求め、その寸分も離れざる結合を喜ぶのである。

學校體育の一方面としての唱歌遊戯・行進遊戯では體育と云ふ條件の下に「運動衝動の完全な

る發展」を求め、而して運動衝動の開放は心身の有機的まとまりを理想とする。従つて行進遊戯唱歌遊戯では運動可能性と人間の姿とを手段とし、内的に満ち／＼た表現によつて個性の奥底に存する生き／＼とした生命の統一體を保護し、常に新にして成長しつゝある身體感情及び生命感情から人間性、即ち人間の有機的統一體を發展せしめんとする。打算を離れ、強くして清く、純真にして眞剣なるもの總てを持つところのものは子供である。彼等は決して意志によつて運動を支配するのではない。運動それ自身を目的として突き進み、運動の中に浸り切る清い情操から出發してゐるのである。而して之こそは本當に子供を救ひ、子供の生命を豊かにするものでなければならぬ。斯して學校體育としての唱歌遊戯・行進遊戯は決して「藝術ダンス」と同様ではないけれども、その特性として子供の運動衝動の開放を念頭におかなければならないことになる。

學校體育としての唱歌・行進遊戯は心身の有機的まとまりを求めて運動衝動の開放を以てその目的とするのであるが、之は世の所謂藝術教育が陥ると同様の弱點をも備へてゐる。最近の藝術教育運動に刺戟されて起り、ともすれば誤つて人間に於ける感情の優位を信じ、體育をば美的情操の涵養のためにのみ存するものであると思ひ易い。けれども藝術教育が教育の中心でない

同様に、藝術的要素の一部分を目的とする體育が存在し得るとしても、それは決して體育の中心でもなければ況んやその全部ではない。ブレンタノーは感情と意志とを區分する從來の見解に反對してゐるのではないか。若し審美を求める體育が感情を基とし、體育に於ける身體的効果とか、意志的鍛練の如き體育理想を無視するやうな時には、感情と意志の相即不離の關係を認めず、身體と精神の關係を忘れることになるのである。従つて、行進遊戯や唱歌遊戯によつて藝術體育萬能を呼ぶことは之等の自滅を招來するものである。こゝに於て學校體育に於ける行進遊戯や唱歌遊戯が審美を求めんとする時にもその限界を認めなければならぬ。

審美を一つの目的とする體育方法にも幾つかの傾向がある。その一は所謂ギリシヤ的調和の美を求めて身體の完成を圖らんとするメンゼンデイークの傾向である。均齊の取れた、生き／＼とした身體は確かに審美を目的とする體育の一つの對象をなすであらう。けれども身體の均齊や調和のみを對象とするときには、いつかは身體の崇拜に陥らざるを得なくなる。

第二は形式の美を求めんとする傾向である。内容はともあれ、美しい表現形式を求めて只管身體的表現の技術を問題にし、やがて表現技術のみに走らんとする。多くの行進遊戯や唱歌遊戯が

無内容にしてただ身體運動を形式化せんとする傾向に陥入り易いのはこの悪い方面の表はれの一つである。

第三の立場は内面の心の美を最も律動的に身體運動を通して表現し、そこに身心の有機的まとまりを求めようとするのである。眞の表現は此の段階に至つて始めて完きものとなる。即ち調和と統一とを求めんとする内的慾求が自然や人間の如き素材の中に注がれ、その對象を通して惹き起された美的調和の律動を内に感じ、その印象の最も強きものを身體的律動によつて表現するのである。而して此の内面的感情と身體的律動に於ける全き統一に浸り込むとき自ら魂を淨め、魂を豊にすることが出来るのである。女子に取つて、此の内面的感情と身體律動の全き調和は實に喜びであり楽しみである、此の喜びと楽しみがあるから、身體の健全にもあづかることが出来、心の清さと魂の豊さがあるから外面的には美しい容姿も得ることが出来、美にしたり切ることが出来るから心の温雅さも得られるのである。

第二節 唱歌・行進遊戯と藝術ダンスとの相違點

藝術ダンスは美的思慕による身體律動の最高表現である。こゝで規定されるものは唯々「美」そのものであつて、演出される表現形式が如何に美的調和を持つかはその藝術的價値を決定する主要なる要素である。それは内容に於ても形式に於ても、或は又表現に必要な衣服、裝飾、照明等に至るまで純粹に藝術として考察されるのである。之に反して行進遊戯は美的表現を一手段とする。そして明かに體育と云ふ領域からの規定をうけ、心身の陶冶と云ふ教育的目的に従屬してゐる。演出される内容に就て云へば、それが児童や女生徒の心身の發達状態に即してゐなければならぬと云ふことはこの一例である。活動的と云ふことを今次の要目に於て特に規定してゐるのもこゝに理由がある。實際児童や女學校低學年の生徒は活動的な運動を好み、このことが又此の頃の子供達の心情にびつたり合致してゐるからである。而して此の要求は發育途上にある者の根本的な慾求であると云はれてゐる。次に教育的條件とは「陶冶」又は「育てる」と云ふことである。従つて育てる爲めには、此のことに役立つやうに教材を吟味し構成しなければならぬ。而してこのことは教育學に於ける陶冶材と文化材とを區別せんとする原理に基いてゐるのである。文化材とはこゝで云ふところの藝術ダンスに相當し、陶冶材とは所謂行進遊戯に當る。行

進遊戯・唱歌遊戯は陶冶材と云ふ點に於て、明かに兒童や生徒を育てる爲めの教材でなければならぬ。

第三節 唱歌遊戯と行進遊戯との違ひ

唱歌遊戯は Singing Games 又は Singspiel の邦譯であり、行進遊戯は Gangenspiel の邦譯である。發生的に見るとそうたいした区分は認められないけれども、現在のところでは唱歌といふものゝ内容に規定されるか否かによつて二つに分けられてゐると考へるのが普通である。併し乍ら、更に之を現象の形相から見ると可成りはつきりとした區別が立てられる。即ち唱歌は語感と音の律動とが結びつけられてゐるので、音樂的律動の外に常に言葉の持つ内容に規定されてくる。然るに、行進遊戯では音樂的律動によつてのみ表現活動が規定されてゐるので、言葉の持つ意味形象から規定されることが殆んど無い。それ故に表現されたものは極めて自由なものであり、寧ろ音樂的律動によつて呼び起された心の自由な律動として現はれるのである。

第四節 女子と此の教材との關係

體育の實踐に際してはつきりと女性的特性を考察しなければならないやうになるのは十三・四才以後である。勿論此の年齢に達しなくとも女兒達は女性的制限を受けた生活をして、所謂女性的生活を營み、又營ませられてゐる。けれども十三・四才以後になると女性的生活を營まんとする欲求が彼女達の根本的なところから出て来る。従つて、この時になると此の教材の取扱ひ上必ず女性的特質を考へなければならぬのである。女子の身は強く、隆々としてゐることよりも、曲線的であり、柔軟で、すつきりしてゐることがその本性である。あまり力を急速に出すやうな教材よりも、律動的で、それ故に感情にうつたへるやうなものであり、急速の代りに、緩徐であつて持続的なものがよいとされてゐる。此の點から考へると此の教材は極めて女性的特質に合致するものであると云へる。いつも此の教材で「感情」と云ふことが問題になるけれども、少くとも此の點に關し心情を考慮に入れないと云ふことは女性的な特質を無視することになる。運動を行はせるのにも意志的方法もあれば「何等かの感激」によつて行はせることもある。而して此

等の方法の何れが適してゐるかといふことは兒童、生徒の體育のためにいづれがよいかと云ふことによつて決定される。そしてこの事に就いては行進遊戯・唱歌遊戯の直接指導者は余りにも明かな體驗を有してゐるであらう。

次に此の教材を特に女生徒に行はせる理由として教授要旨が示してゐるところの「容姿の端正」と「快活溫雅」といふ點を考へなければならぬ。勿論容姿の端正と云ふことを特に女子のみに持ち出すのは「教化されたる容姿」であらねばならないからである。即ち女性的に教化されたる容姿の端正を必要とするからである。次に「快活溫雅」は心情である。そして此の教材は心情の發露を手段とする。このことがあるから行進遊戯を手段として心情をリファインせんと努力してゐるのである。

それ故に此の教材では、以上のやうな特徴を充分把握して、こゝに主眼點を置いて教授し、他の諸教材の働きをまつて體育の全體目的を完成することに努力しなければならぬ。今次の要目が各教材の特徴を認めたのはこれが爲めであつて、行進遊戯や唱歌遊戯のみによつて體育の全目的を果さんとすればそれこそ大きな誇りである。しかしこれ等の教材の持つ眞の意味を没却して

「偏狹なる體育」指導に陥ることは又誤りの大なるものであるといはなければならぬ。體操は體操として、競技は競技として特殊の手段と目的とを持つてゐると同様に行進遊戯・唱歌遊戯も亦特有の手段と特有の主目的を以つてゐる。結局は全體として之等の總ての教材から體育の全目的を達成することではなければならぬ。

第二章 基本練習

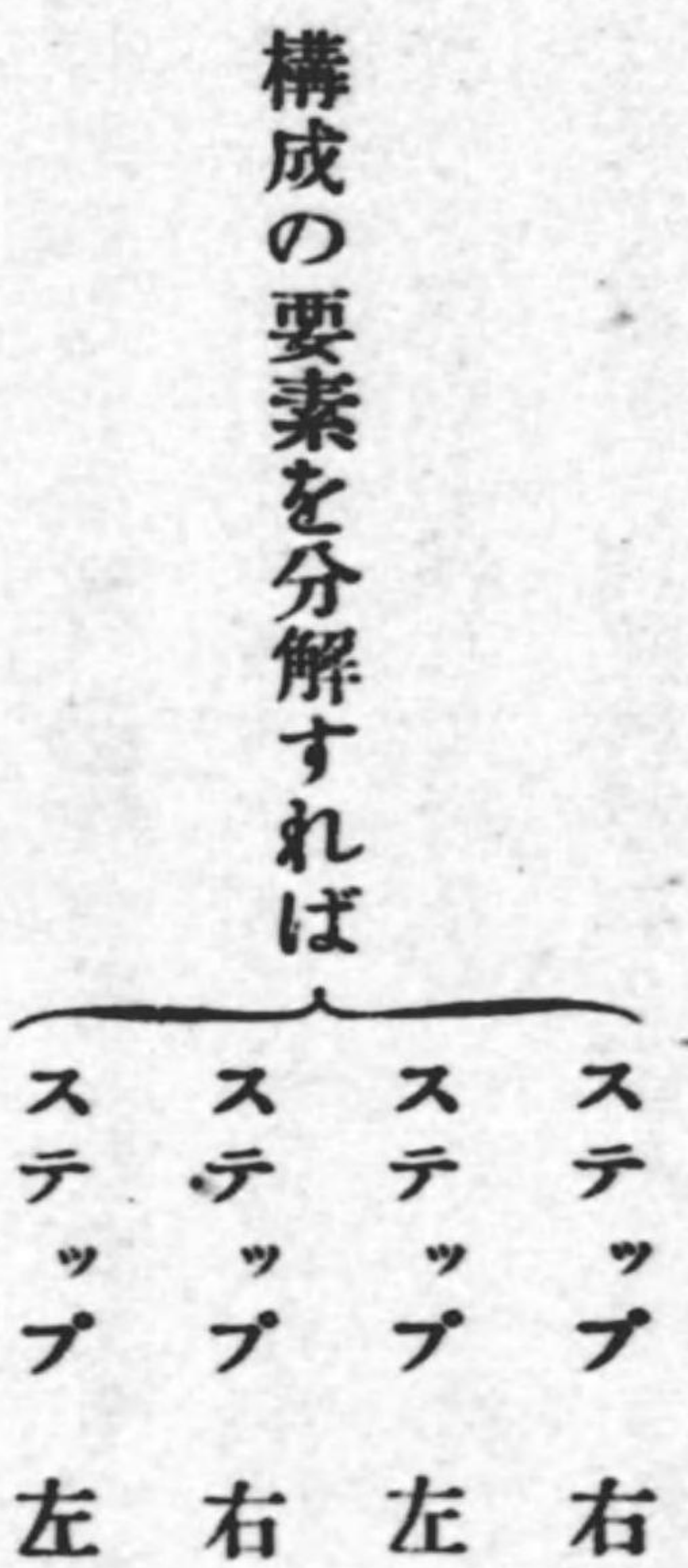
唱歌遊戯、行進遊戯の諸動作に習熟せしめんとする目的によつて、基本練習材料を利用するのであるが、之は大體に於いて基本歩法・基本態勢・應用態勢の三つに分けられるのである。

第一節 基本歩法

- | | | |
|----|------------------|--------|
| 1 | ウォーキング ステップ | (尋一、二) |
| 2 | ランニング ステップ | (同) |
| 3 | スキツピング ステップ | (同) |
| 4 | ギャロツピング ステップ | (同) |
| 5 | ホツピング ステップ | (同) |
| 6 | ツー ステップ | (尋三、四) |
| 7 | ポルカ ステップ | (同) |
| 8 | スライド ステップ | (同) |
| 9 | ワルツ ステップ | (同) |
| 10 | マヅルカ ステップ | (同) |
| 11 | スケーティング ステップ | (尋五、六) |
| 12 | シャッティッシュ ステップ | (同) |
| 13 | フォロー ステップ | (同) |
| 14 | ヒールエンドトウポルカ ステップ | (同) |

- | | | |
|----|-------------|----------|
| 15 | バランス ステップ | (同) |
| 16 | レドアポルカ ステップ | (同) |
| 17 | バスク ステップ | (高小、三高女) |
| 18 | ミニエツト ステップ | (同) |

一 ウォーキング ステップ



この様にして無限に続く。

この歩法はすべてのダンスの歩法の中最もプリミティブなもので、従つて基本歩法としては最も大切なものである。

此の運動に於けるウォーキングステップの要領は踵を先にあげて最後に足先が床から離れる様に離床し着床は足先から次第に踵へと行はなければならぬ。故にこの歩法に於ては、足首の屈

伸が良く行はれる事になる。

例を擧げて説明して見ると右足が床から離れ、軽く膝の屈つたまゝ股を前に擧げ次第に體重を前方に移すと、前に上つた足は體を前に倒すまいとして、自然に前方の床の上に下される。そして其の足先が床にふれる少し前から、後の支への足の踵が上りかける。そして前方の足が完全に着陸すると、後の足は離陸を始める。この運動が循環して絶えずくりかへされる様に、練習されなければならぬ。動作が早くなつても、遅くなつても、この要領は變らない。こゝで使用してゐるウォーキングステップは自然な歩行とは多少異なる。つまり、着陸が普通の歩法では踵から足先へと運動を移して行くが、こゝでは、その反對である。着陸に際して踵から足先へ運動を移して行く事が、何故自然かと言ふと、これは體をよく前進させる爲には、着陸の終結と同時に、着陸した足の足先で後方に地床を押さなければならぬので足先から着陸する事は、力の損失になるのである。

然しダンスの場合は美といふものが、一方の條件になるので、必ずしも經濟的立場からのみ要求する事は不可能である。

如何な拍子の伴奏曲を用ひても、練習出事ない事はない。然しながら、二拍子四拍子等が一番歩きやすい。

ニ ランニング ステップ



以下この様に繼續される。

普通ウォーキングステップの速さを次第に増して行くと、ランニングステップに變化して行く。然しウォーキングステップは兩足が同時に離床してゐる瞬間は決してないが、ランニングステップは或瞬間兩足とも空中にある。

要領は例へば右足から開始するとして右足から着陸するならば、先づ右足で床を踏切つて跳ば

なければならぬ。そして右足先から着陸して踵をつけた反動を利用して右足の踏切を助ける。この場合には、絶対に踵から着陸する事はない。足先でするのが着陸時の原則的條件である。速度の遅いランニングステップは高く跳躍する必要はないから、踏切は軽くていいのだが、離陸、着陸の足の状態はウォーキングステップの時と同じである。伴奏曲はウォーキングステップの時と同様の注意を拂へば良い。

三 スキッピング ステップ



左右交互に繼續されて行く。

ウォーキングステップやランニングステップは、構成の要素が一つであつたがこれは二つである。いくらか複雑さを加へたわけだが、これも幼児の喜んで行ふ歩法で、極くプリミティブなものの中に入るだらう。

ステップを構成するステップとホップの組合せは長いステップと短いホップを以つてする。之を伴奏曲に合わせて練習する場合には一拍子一つ行ふのである。つまり若し曲が二拍子であれば一小節のステップ二つ、三拍子なら三つのわけである。

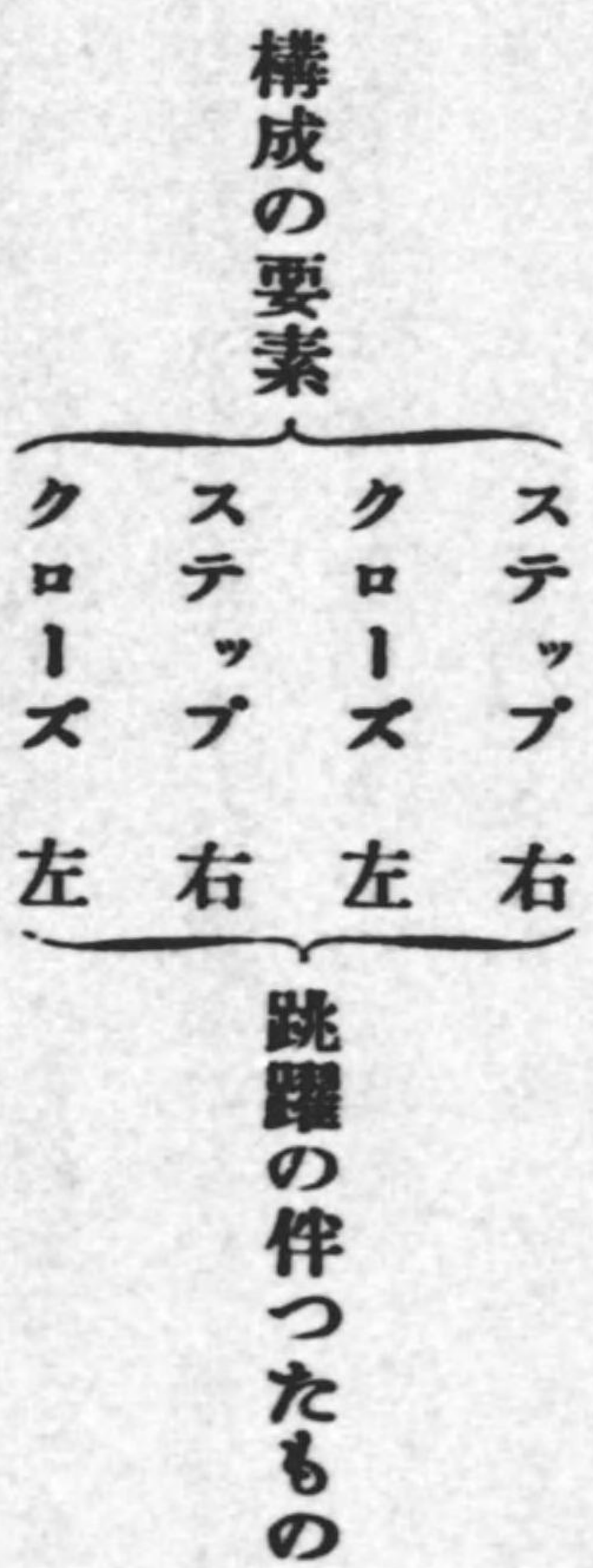
ステップを行ふ場合、ステップを踏まぬ方の足は他の足がステップすると同時に前に挙げる。膝は自然にたれて特に屈げる必要はない。氣持は股を上げる事と足先を下に向ける様に。さうすると膝は一人で鋭角にまがつて来る。

ホップした足の着陸は足先から踵へと行はれる。足先のみで着陸するのは避けた方が良い。膝、足首、臍の各關節が柔く動いて強い力が融和される様に行はなければならないのである。

ステップは後方にも行はなければならない、この場合は前方に進む時には前に挙げた脚を、後方に進む場合には後にあげる様にしなければならないのである。尙その場でもする事が出来、ス

テップでターンもしなければならぬ時もある。

四 ギャロッピング ステップ



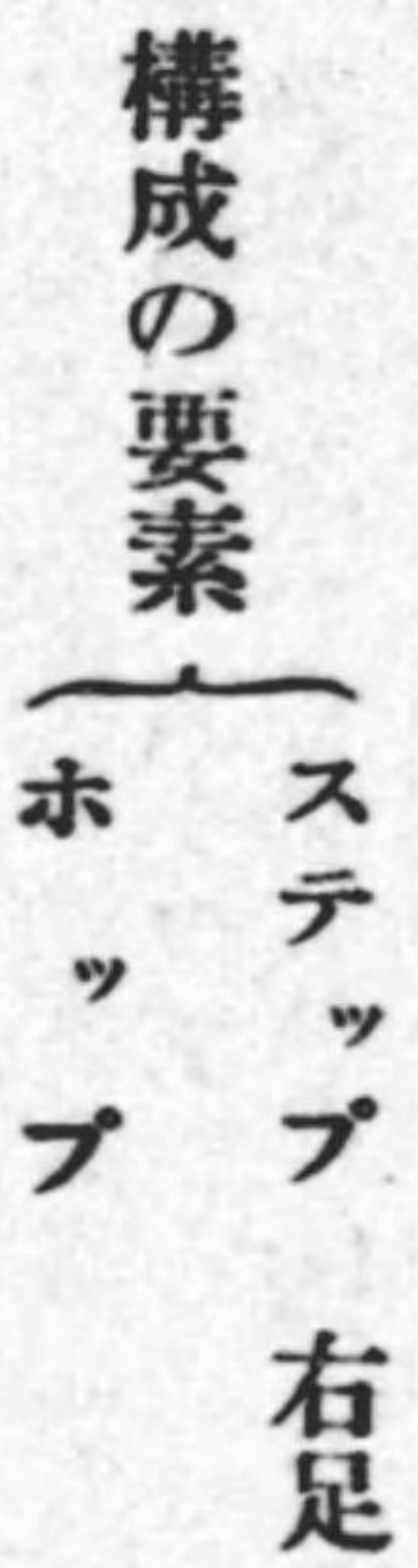
ギャロップもスキップと同様に要素は二つになるが簡単な歩法である。まづ右足を横にステップしそれに左足をクロスする練習を連続してする。それが十分に出来たら、一度毎に右足でふみ切つて、左足は右足が離陸すると同時にクロスされる様に動かす。さうすると、クロスは空中に於て行はれる様になるのである。一足で他足をカットする様に説明したものもあるが、カットではない。唯演の最中にはカットと見間違ひやすいだけの事である。

伴奏曲は八分の六拍子が一番利用しやすく、四分の二拍子も相當に伴奏曲としては用ひやすい

のであるが、その他のものも用ひられない事もない。何故ならギャロップは一拍子に一步法行ふのだから。

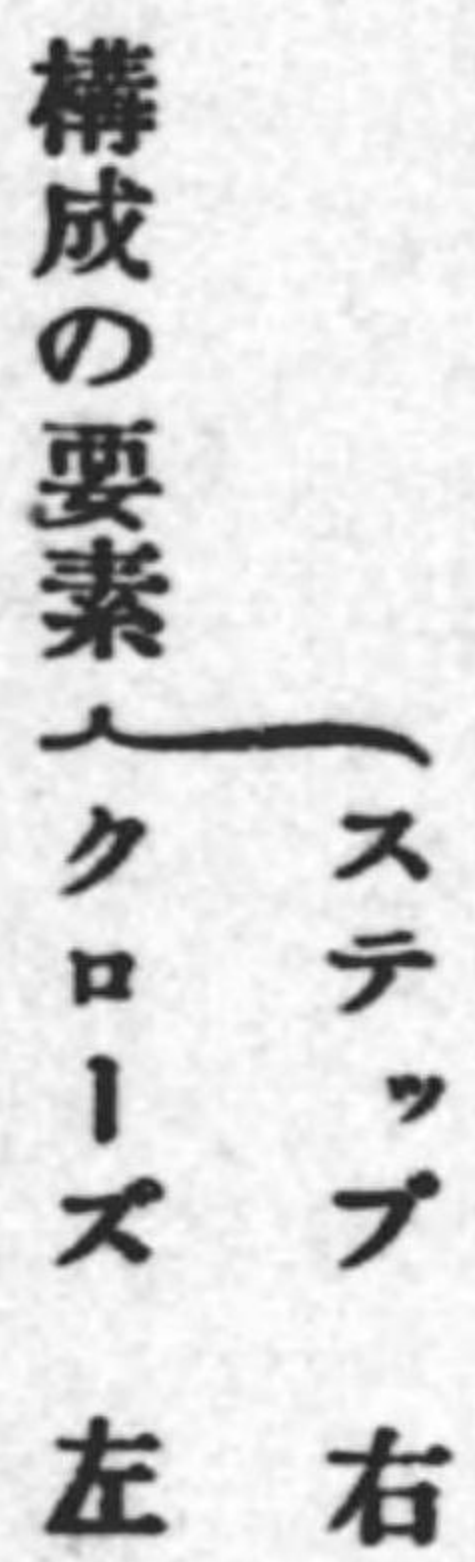
ギャロップは踏切りをつよく、元氣な跳躍を以て行はれる方がよいと思ふ。

五 ホッピング ステップ



右足を前にステップ——踏切つてホップ——同時に左足をのばして前に擧げる。二拍子で行ふ。

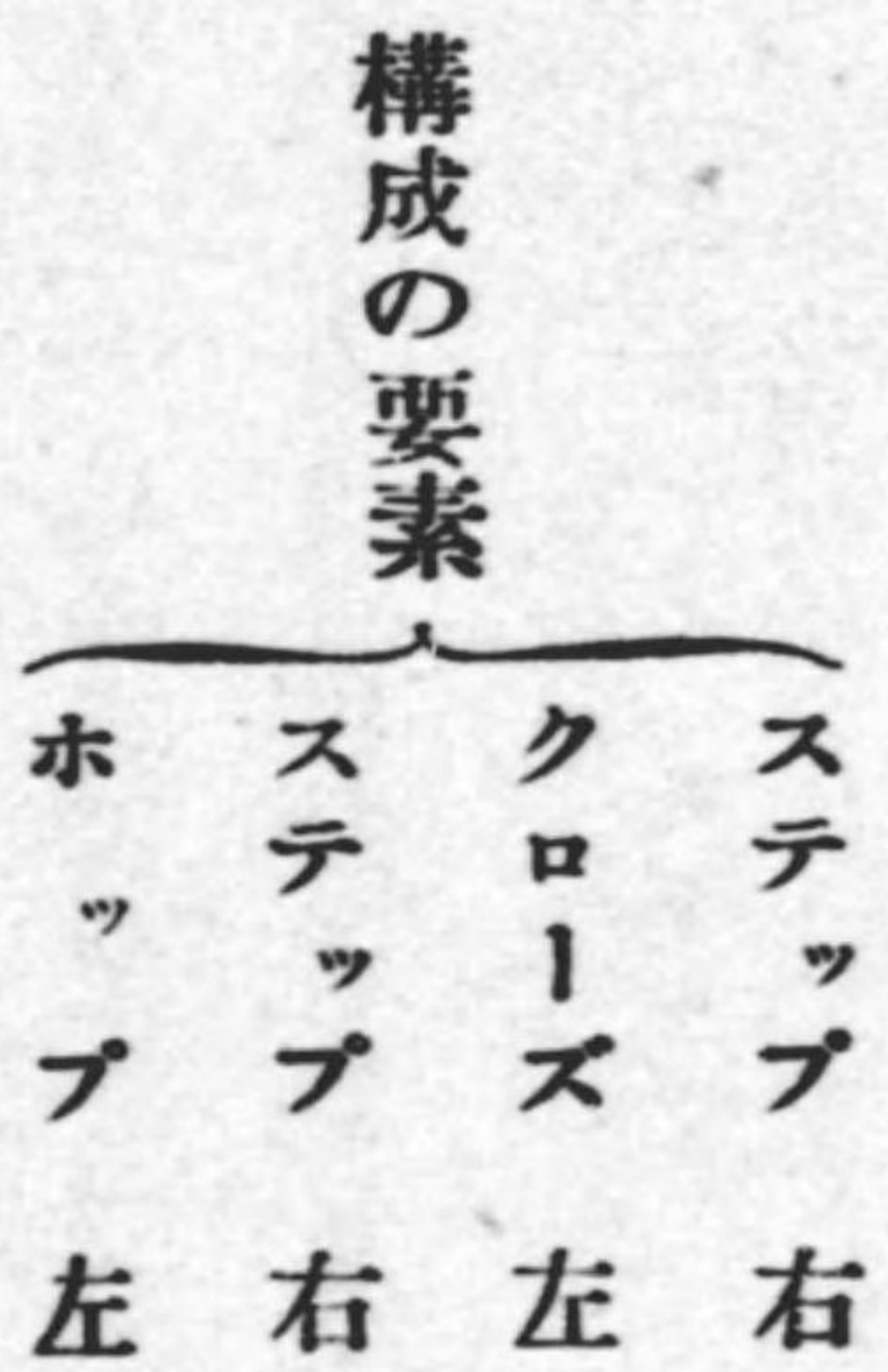
六 ツー ステップ



一 ステップ 右

ツイステップはバランスと構成の要素は同じであるが、ステップの場所が違ふ。前方のツイステップは右足を前にステップして左足を右足の後にステップし、右足を更にステップする。これを二拍子で行ふ。バランスの様に三拍子で行ふ事は無い。後方のツイステップは右足を後にステップし、左足を右足の前にクローズし、更に右足後にステップする。

七 ボルカ ステップ



の連続である。右足から始める時は右足前にステップ、左足を右足の後にクローズ、更に右足を

前にステップ、その足でホップを行ふのである。ホップの時他方の足は軽く股を前方にあげる事はスキップの時と同様である。これは、前方に行ふボルカであるが、後に行ふ場合にも方向が異つて居るだけで足の運び方は前の場合と同じである。但し最後のホップの場合、他の足は前方に舉げずに、後方にひく。

同様の動作を其の場でも行ひ得るやうに練習する事も必要である。

伴奏はボルカは2-4がよい。2-4の曲の一小節、即ち二拍子でこの歩法を一つ行ふ事になる。2-4の曲は澤山あるが、出来ればボルカの曲の方がよい。

八 スライド ステップ



スリップはギャロップと非常に間違ひやすい歩法である。要素に分けて見ると間違はないが、実際ではいつもギャロップと混同される。要領は右足を右にスライドし、左足を之にクローズする。その練習を正しくし、十分正確になつたら、スライドした足で軽く地をふみ切つて跳ぶ。跳躍は軽い低いものでないと、次のスライドがうまくゆかなくて、ステップに変化する。さうすると歩法が違つて来る。この歩法の場合のクローズも、ギャロップの時と同様にされる。その他伴奏曲等に就いては前と全く同じである。

歩法の感じはギャロップは元氣を思はせるが、スリップの方は軽快さを持たせるのである。

九 ワルツ ステップ

構成の要素
 ステップ 右
 ステップ 左
 クローズ 右

右足から始めるとすれば、先づ右足を前にステップし次に左足をもう一度前にステップし、更

に右足を左足にクローズする。右足をクローズすると共に、體重は右足に全部かけられて、左足は直ちに次の動作を行ふ事の出来る様に、フリーになつてゐなければならぬ。二度目のワルツは左足から行はれる。左足前にステップ、右足前にステップ、左足を右足にクローズ——同時に左足に體重のすべてを移して、次のワルツが直ちに右足から行はれる様に準備する事等、すべて右足から始めるワルツと同様である。かうして右左交互に繼續される、伴奏曲は四分の三拍子、そしてワルツ調のものが良い。

一〇 マヅルカ ステップ

構成の要素
 スライド 右
 カット 左
 ホップ 右

右足で右にスライドし、次に右足で踏切り左足で右足をカットして右足の位置に移り、同時に右足を稍横にあげる。最後に右足でホップし、同時に側方にあげた脚の右膝を屈げる。

マヅルカは側方にも前方にも行はれる。但し前方の場合には體を右又は左に向けて行ふので、結局側方のマヅルカと全く同じ要領で行へば良い事になる。これはワルツ等と違ひ非常に元氣な歩法である。

一 スケートイング ステップ

構成の要素
 スライド (右)
 舉 踵 (右)

これは滑る歩法である。右(左)でスライドを前方に行ひ、次に其の同じ足の踵をあげるのであるが、この時には他の足は後に擧げる。

この場合上體は普通前に倒れ勝ちであるので、かへつて胸を張つて上體を後におこすがよい。兒童の練習に際しては、「胸部よりも頭が前に出ないやうに」と注意するのが解り易いやうである。

伴奏曲は二拍子のものがよい。

なほ同種の歩法の中にスライドを三つ續けて行つて、一つ擧踵するものもある。

二 シヤツティッシュ ステップ

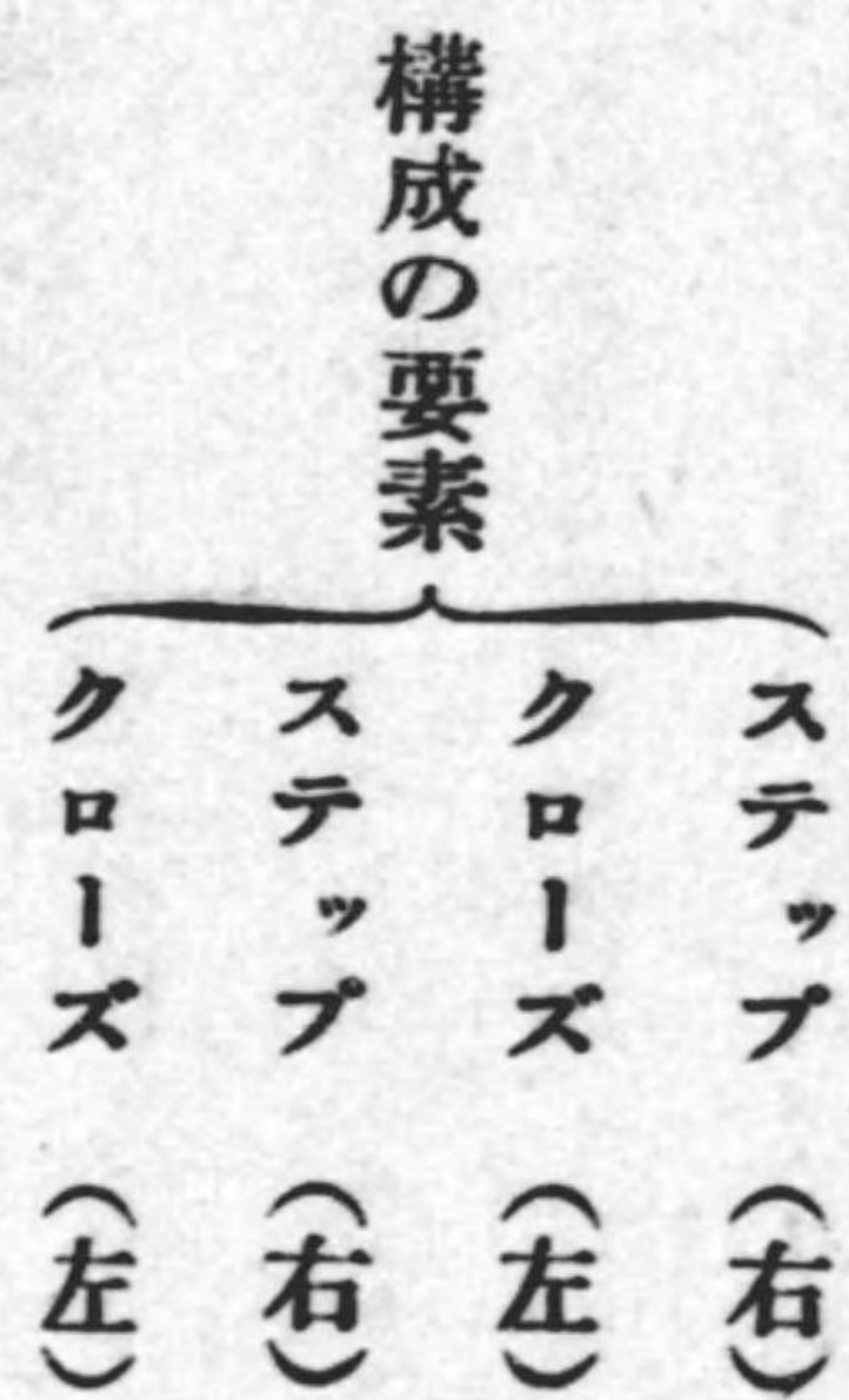
構成の要素
 スライド (右)
 クローズ (左)
 スライド (右)
 ホ ッ プ (右) (この時ホップしない他の脚は前方にスキングする)

この歩法は時々ステップ、クローズ、ステップ、ホップ(他の脚を前方にスキング)と誤られ易いので、注意しなければならない。

この歩法を今右足より行ふとすれば、右足を右へスライドし、次に左足をその右足の後に揃へ、更に右足を右にスライドし、最後にその右足でホップして、他の脚は前方股の高さに振り上げる。但しこのスキングの場合餘裕のある振り方をし、一見頗る輕快を思はせなくてはならない。それには脚全體を十分緊張させて行ふがよい。

伴奏曲は四拍子が一番やり易いが、二拍子の二小節を一步法にあてゝも出来る。歩法としては稍々要領が誤られ易くなるので、困難な歩法である。

一三 フォロー ステップ



以上の連続である。

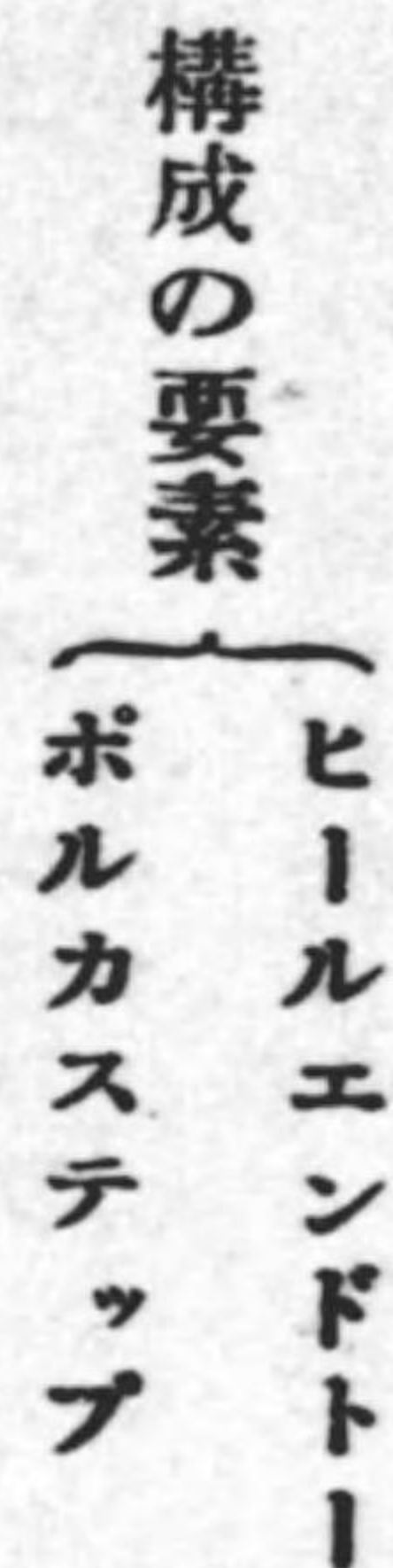
これはどの方向にも行へる。

例へば右方に進むとすると、最初の右足を右にステップし、次に左足をその右足にクローズし、更に右足を右にステップさせて進んでゆく。同様にして前方にも後方にも、斜前後方にも行ける。

一拍に一步法を行ふ。

伴奏曲は何拍子にもあふ。

一四 ヒールエンドトールボルカ ステップ



ヒールエンドトールは最初床に踵をつけ、次に足先を床につけるので、この二つの動作を交互に行ふ。足先を置く位置は一定してゐない。

(1) ヒールエンドトールを前後に行つて體の前後倒を伴つたもの。

(2) ヒールエンドトールを側方に行つた場合。

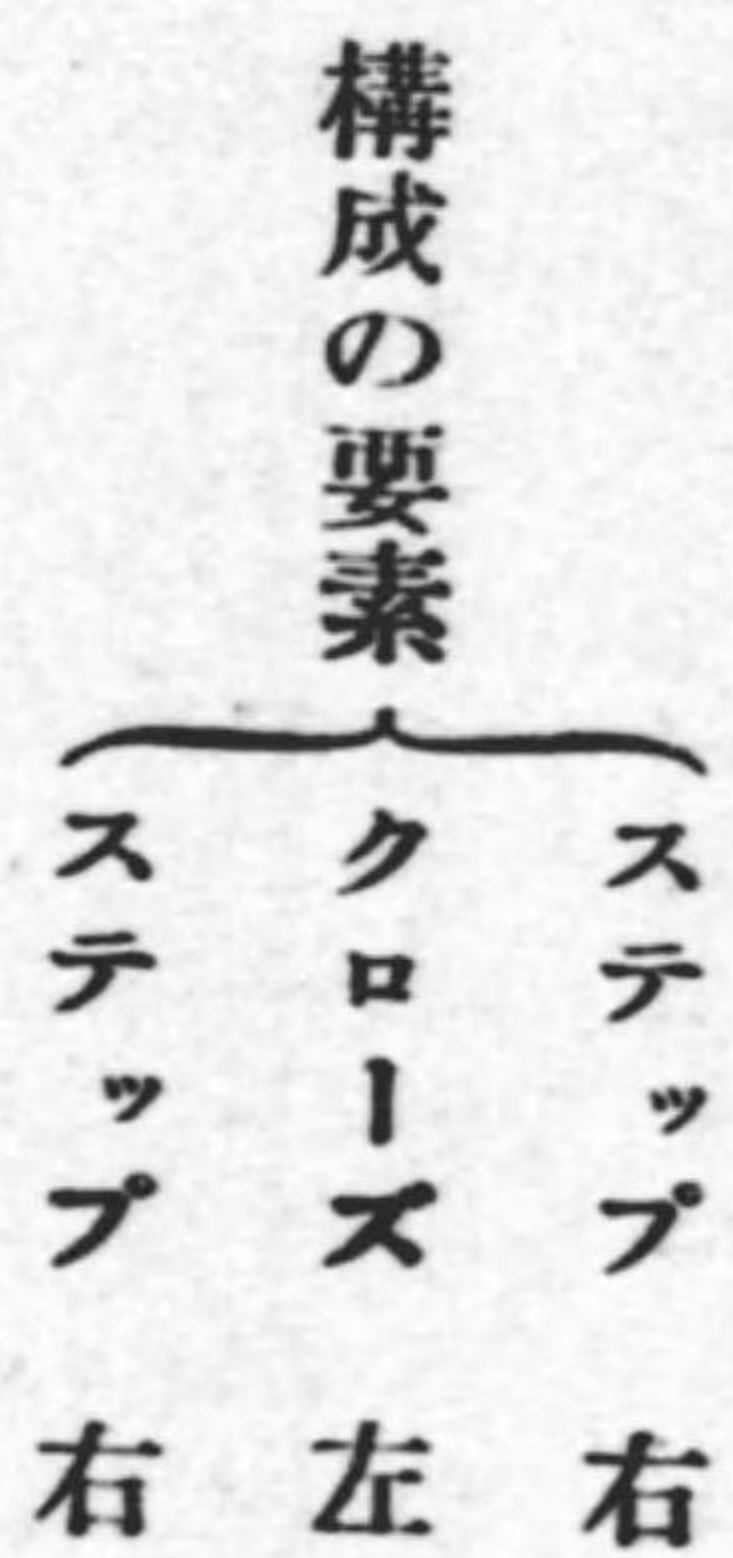
どの形式でもかまはないが、ヒールエンドトールを左足で行つたとすると、ボルカはトールの動作を終つた左足から行はれることになる。例へば左足前に出して踵を床につけ、次に其の脚を後にひいて足先を床につけて、いはゆるトールの動作をし、更に左足を前にステップしてボルカの第一

の動作に入り、之に右足をクローズし、なほ左足を前にステップし、最後に左足でホップするのである。

これは所謂複合歩法であつて、二つ以上の歩法、或は一つの歩法と幾つかの動作との結合したものの一種である。

伴奏曲は四分の二の二小節をこの一歩法にあて得るものを選ぶのが最もよいと思ふが、四分の二丈けでなくて二拍子ならよいであらう。

一五 バランス ステップ



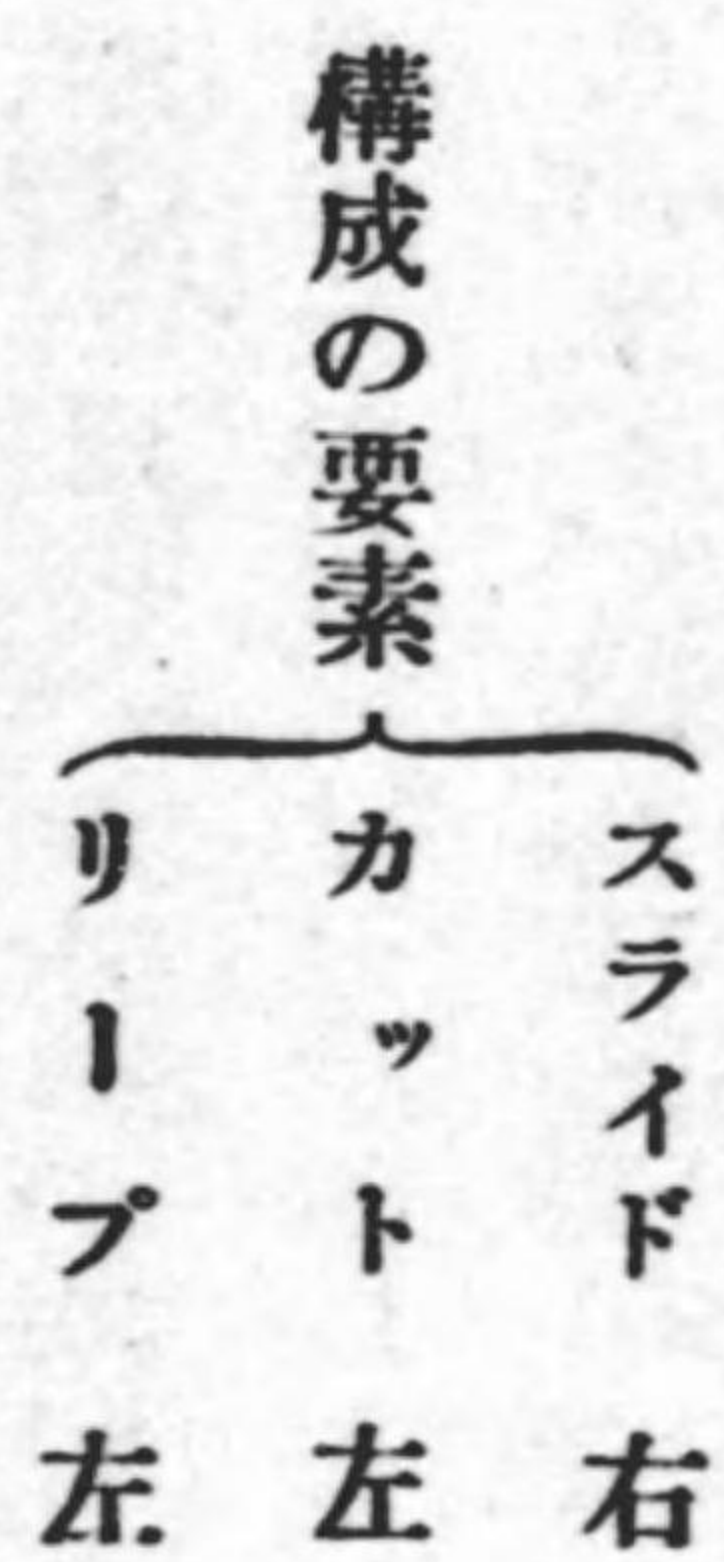
右足をまづ前にステップし、次に左足を右足の後にクローズし同時に右足を舉げて最後にその右足を同じ場所にステップする。これは前方に行ふバランスであるが、若し側方に行ふ場合には、

右足を右にステップし、左足を之にクローズし、最後に右足を同じ場所にステップする。即ち第一動のステップの方向が前方におかれるか、後方におかれるか、或は側方におかれるかで、バランスを行ふ方向が決定されるわけなのである。

この歩法は極柔かに行はれる方がよい。だから足首の屈伸を出来るだけ柔かにして十分滑かに使用出来る様に練習しなければならない。足首の屈伸を忘れて、膝の屈伸によつてこの歩法を演じようとする事は、本源を忘れた練習と言はなければならない。

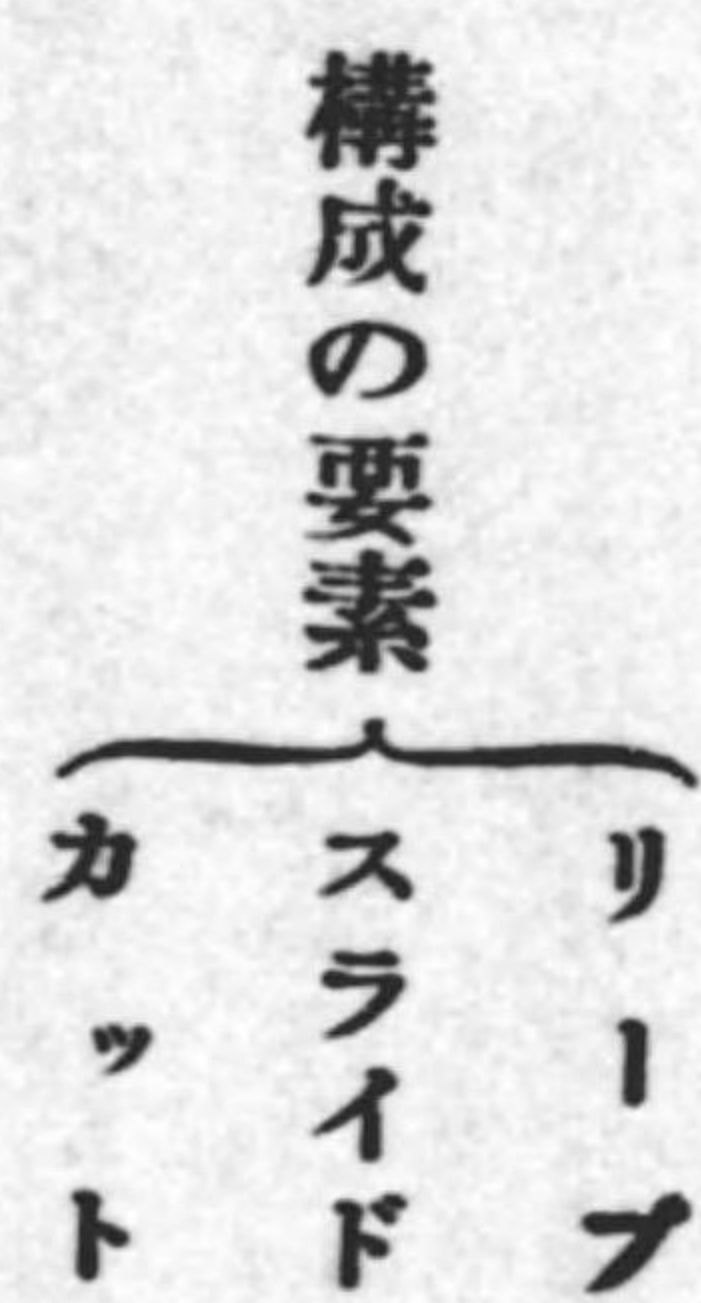
バランスは四分の三拍子の曲に於て練習される場合、三動作三呼間で行はれるが、四分の二拍子又は四分の四拍子の曲に於て練習される必要のある場合には二呼間にこの三動作を行ふ。

一六 レドアボルカ ステップ



大體に於てマヅルカの構成に似てゐる。異るところは、最後のリープの所だけである。故にその所だけを説明しよう。この歩法は前に述べたマヅルカが正確に出来さへすれば、極容易に出来る。即ち右足で右にスライドし、次に左足でこれをカットし、更に左足で踏切つて跳び、右足を以て着陸して、同時に左足は膝を屈して後にあげる。

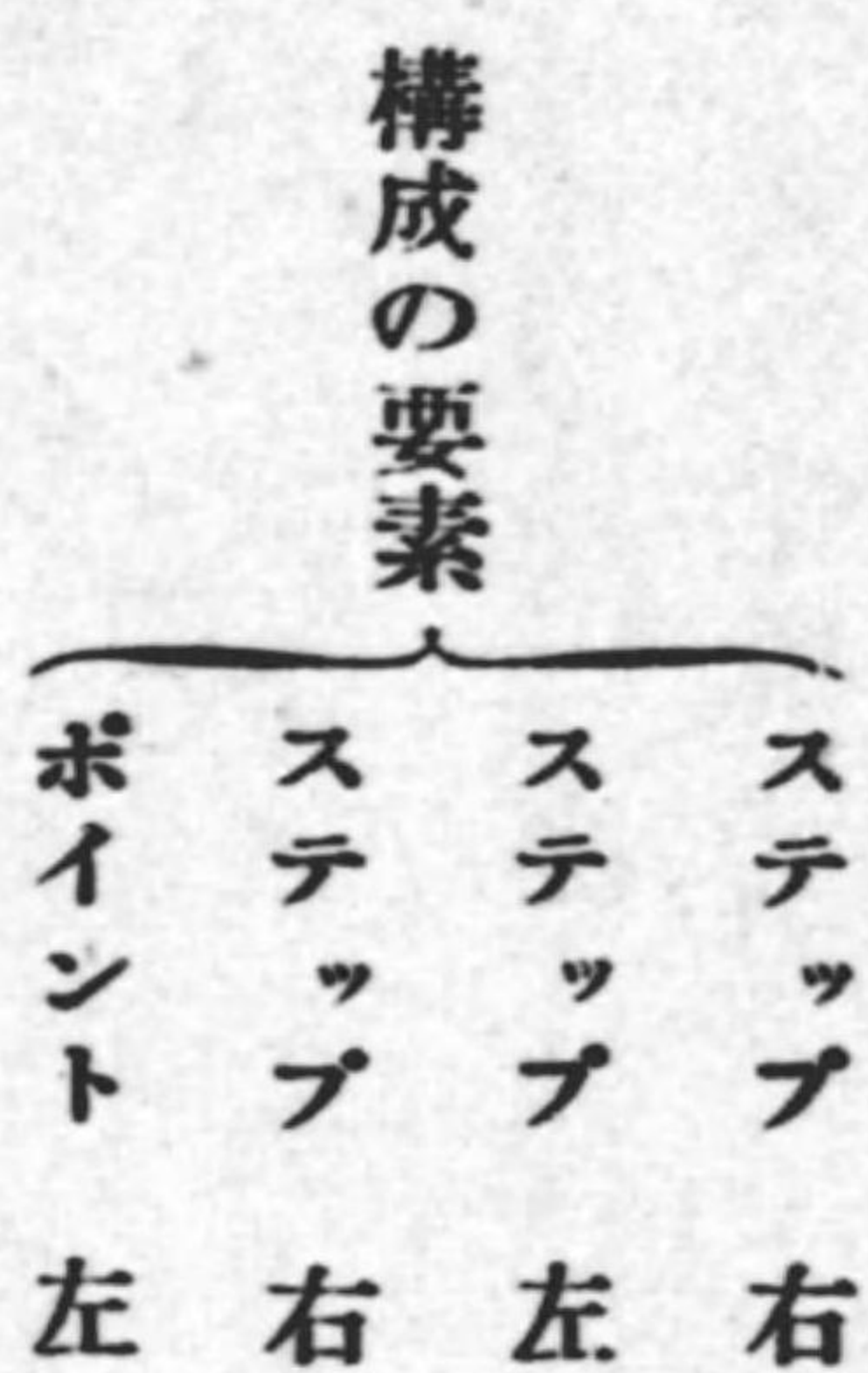
一七 バスク ステップ



右足を右にリープし（左足で踏切り）左足をスライドして前に出し、更に右足で左足をカットして左足を僅かにあげる。

三拍子で行ふ。

一八 ミニエット ステップ



ミニエットステップは非常にゆるやかなステップである。先づ右足を前にステップし、次に左足を前にステップし、更に右足を前にステップし、次の三呼間で靜かに左足を前に出して、最後にポイントする。

六拍子のミニエットの曲で行ふ。

第二節 基本態勢

従來 foot Position と呼ばれてゐたものと arm Position と呼ばれてゐるものを含む。

一足の姿勢

兩足をそろへて先足を九十度の角度に開くもの。



兩足先を九十度角にひらいて、之を一足長だけ横に離したもの。



一足を他足の内側中央部に踵がつくやうにして、九十度に足先の開かれ
たもの



一足の足先を九十度ひらいたまゝ、一足長だけ前出せしめたもの。



一足の踵を他足の足先につけ兩足先のひらきを九十度角にする。



足の姿勢は百八十度にひらいたものもあるが、學校體育は技術者の養成を目的とするのでないから上述の方法に止める。

二臂の姿勢

始めの姿勢 臂を體の前でむかひ合はせる



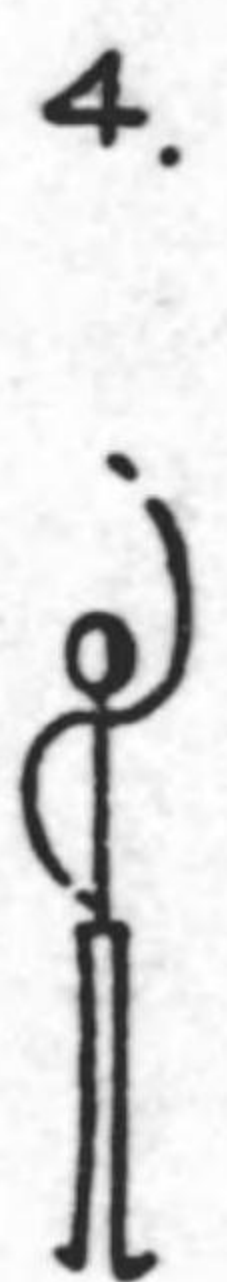
臂を左右にあげたもの。



片臂上、片臂横にあげたもの。



左右何れかに兩臂を斜上にしてあげたもの。



片臂上、片臂を前にあげたもの。



兩臂を上にあげたもの。

第三節 應用態勢

基本姿勢に基づく手足の變化形及び之等の結合したものをいふ。例へば――

一 臂の變化形として

1.



兩臂を斜下(斜上)にひらいたもの。

2.



片臂前、片臂横にあげたもの。

3.



兩臂を左右何れかに斜下にあげたもの。

4.



片臂上、片臂斜下にひらいたもの。

5.



兩臂を前にあげたもの。

二 足の變化形として

基本形の場合には兩足に平等に體重をかけてをくが、之を一足によつて體重を支持し、他足は之をポイントし、又はあがることによつて態勢を變化せしめることが出来る。



三 結合態勢

以上の兩者を結合せしめて構成する。例へば

1 右足支持 左足前出ポイント 臂基本第五



2 右足支持 右脚後舉 臂變化第一



23 菊
24 寧樂の都

(高女四・五女師二・三)
(高女四・五女師二・三)

25 秋の夕ぐれ

(女師四・五)

一 日の丸の旗

一列圓形

【方法】

(一)

白地に赤く

中央に旗が立て、ある様に見做す。連手して右へ歩く。

日の丸そめて

圓の中心へ向き、両手を側から上にあげ丸くする。

あゝ美しや

手を側から下す。

日本の旗は

拍手しつゝ足踏。

(二)

旭の登る

左へ歩く。

勢見せて

片膝を立て、しやがみ手を下から上に少しづゝ上げ乍ら立上り、萬歳をする。

あゝ 勇ましや 日本の旗は

一番と同様。

二 鳩ぼつぼ

一列圓形

【方法】

(一)

ぼつぼつぼ はとぼつぼ

手を側にあげて圓周上をまはる。

豆がほしいか そらやるぞ

その場で歩いてまはり乍ら豆をやる。

皆で仲良く

圓の中心へ向き、連手しつゝ前に進む。

食べに來い

手を低くさし出して鳩を呼び乍ら後に退る。

(二)

ぼつぼつぼ 鳩ぼつぼ

一番に同じ

豆がうまいか食べたなら

連手して圓の中に入つて行き、最後にそつとしやがむ
皆で揃つてとんで行け
後をむき、圓の外側へ翼をひろげてとんで行く

三 兵隊さん

一 列圓形、圓心へむく

【方法】

鐵砲

右肩に鐵砲をかつぐ様子をして、右足スタムプ
かついだ

左足同様スタムプ

兵隊さん

右、左、右三つスタムプ

足並揃へて歩るいてる、とつとこく歩いてる

鐵砲をかついだまゝ圓周上を歩く、右向をして

兵隊さんはきれいな

拍手しつゝ圓の中心に八歩ステップ

兵隊さんは

拍手しつゝ圓周の方へ退る

大好き

両手を胸にあてゝ

だー

手を開いて上にあげる

四 ヒカウキ

一列圓形

【方法】

(一)

飛行機

両手を横にあげ、中心の方の手を低めてランニングステップで進む

タララ、ララ、ラ、ラ、ラ

同時に右手を下げてランニング

あたまの真上

その場でまわる

ち宮の真上

反對にその場でまはる

何處かへ行つた

中央をむいて拍手

(二)

第三章 唱歌遊戯

飛行機 く〜タララ、ララ、ラララ

一番に同じ

村から町へ

中央に向つて両手を體の前ですくひ上げる様にして進む

町から雲へ

前と反對にして元に戻る

姿を消した

一番の終と同じ

五 案山子

一列圓形、圓心にむく

【方法】

(一)

山田の

右手で斜前上方を指す。

中の

手をおろす。

一本足の案山子

片足を横にあげ、左膝を屈けて、左足尖を右膝の後面につけて一本足で立つ。最後に直立にかへる。

天氣のよいのに

右手を額にかさして右の空を眺め、次に左手で同様の動作を行ふ。

みの

兩指尖を肩上につける。

笠

両手を頭上につける。

つけて

手をよこからおろす。

朝から晩までたゞ立ちどほし

拍手しながら、其の場で右へ一回まはる。

歩けないのか

股を高くあげてふみつける動作を右左各々一回行ふ。

山田の案山子

「一本足の案山子」の動作をする。

(二)

山田の中の

(一)と同じ動作

一本足の案山子

右手を斜前上、左手を斜後下方にあげる外、(一)と同じ動作を行ふ。

弓矢で

左手を圓心にむけて弓を横たへる形にあげ、次で右手は矢をつがへるやうにあげる。

おどして

右足を圓の外方にふみ開き、同時に體を右向きとし、圓心の方に眼を注ぐ。

カんで

右肘を側方に引き、左臂に力を入れ、弓をひきしぼつた形をとる。

居れど

直立にかへる。

山では

両手を頭の高さに體の前方にあげて、山の形を作る。

鳥が

両手を側方に軽く伸す。

かあかとわらふ。

圓の内側を向き十六スキップをし手は右左交互に掌をひらく動かしながら上から下す、
雪やこんと霰やこんと降つても降つても未だふりやまぬ

一番と同様。

犬は喜び庭駆けまわり

連手して圓周をスキップでまはる。

猫はこたつで圓くなる

連手のまゝ圓心にスキップ。「圓くなる」でしやがんで丸くなる。

八 春が來た

一列圓形

【方法】

(一)

春が來た 春が來た

連手し少し前に上體を傾けて、右足から三步圓周上を右に進み、次で左足で一回ポップー
次に同動作を左足から行ふ。

どこに來た

體を伸し上方を仰いで右足から前のやうに「三步前進歩」をなし、次に左足から同じ動
作を行ふ。

山に來た

圓心へ向いて連手をし、右足から「三步前進歩」を行ふ。この時左脚を後方にあげ、
臂は連手のまゝ上方にあげる。

里に來た

左足から「三步後進歩」をする、この時右脚の膝を屈けて前にあげる。

野にも來た

兩手を前方より上にあげて横からもとの位置におろすと共に右に四つのステップターン
を行ふ。

花が咲く 花が咲く

(二)

右足から右に「三步前進跳歩」、但しこの時兩手を横から上方にあげ第五基本形となる。
左足から「三步前進跳歩」の行はれるとき上方にあつた手を下におろす。

どこにさく

花がさく 花がさくの動作をくりかへす。

山に咲く 里に咲く 野にも咲く

(一)の「山に來た」以下に同じ。

(三)

鳥がなく 鳥がなく

右足から「三步前進跳歩」を行ふとき、兩手を横にあげて下す。次にこれと全く同様の手の運動を以て左足からくりかへす。

どこになく

同前の動作反復。

山でなく……

(一)(二)に同じ

九雲 雀

自由配列

【方法】

(一)

一小節—四小節

右手を耳のかけにして音をきくやうな様子をし、左手を横に軽く流して、右足からボルカステップ四つで自由の方向に、ひばりの聲に耳傾けつゝ進む、軽くそして元氣に。

五小節—八小節

臂、第三變化形を右から行ひ、其の時右足からツイステップを行ひ、臂が左に動くと同じ時にツイステップも左から行ふやうにし、四つの小節に四度行ふ。

空高く望みて雲雀の聲をおふ様子

九小節—十二小節

臂を第五基本形になるやうに横より上にあげると共に右足前にふみ出して、ポップを行ふ。その時は左足は後舉。次に左足を後にステップし、ポップを行ふと共に、右足は屈膝前舉、臂は第一基本形にうつる。

以上を全部で二回くりかへす。

十三小節—十六小節

右足を一步後にひいて、それに體重をうつし其の間に右手を體の前から頭の上に舉げ胸をはつて遙か上方をのぞむ。(四呼間)更に左足を後にひき體重を移して、左手を前より上に舉げて上方をみる。

以上の動作を更に一回づゝくりかへす。そして最後の時足をそろへて手をおろす。

(二)

一小節—四小節

(一)と同じ動作を行ふ。

五小節—八小節

(一)と大體同様の動作。

但し眼のまへに廣々とひろがつた原を見ながら、そして最後即ち四つ目のステップをやめて、その代りに左足を前にポイントすると共に腰をひくめて臂を兩側に下におろし、原をみる様子をする。

九小節—十二小節

最後の一小節内に左足から前方の原にむかつてステップ・クローズ。

次の一小節でステップ・ポップし、右足後舉、手は左手まへ右手後横にあげる。以上の動作を更に一回右にくりかへす。

十三小節—十六小節

右足から一小節内に二歩づゝのステップで、此のあたりとおもはれる邊を表現的に探し歩いて、十六小節目にいかにも、ふしぎさうにして首をかしげて動作をやめて、考へ込む。

一〇 汽 車

十人内外の 一列縦隊、一列車を意味する。

【方法】

(一)

一小節—八小節

一小節に二歩のウォーキングステップで前進、十人の児童は両手を腰部を中心として圓狀に廻轉せしめて汽車の車輪の運動を表現する。一步に對して一廻轉。

九小節—十四小節

前と同様の運動を繼續する。但し上體を前屈せしめてトンネルをくぐり抜ける感じを表現する。

十五小節—十六小節

トンネルをくぐり抜けて直立して進行。

(二)

一小節—十六小節

すべて一様にスキップを行ふ。そして先頭の児童の想像によつて、列車は任意の方向に、又任意の場所を進行することが出来ることにする。

注意 歌詞三番まであるが、動作を以て終りとする。

一一 氷すべり

一列圓形

【方法】

一小節

圓心へ向つて左足左にステップ同時に拍手一回、右足を左足の後五の位置にポイント、同時に拍手一回。

二小節

一小節と同様の動作を右足から右に行ふ。

三小節—四小節

一小節・二小節の動作をくりかへす。これから極めて愉快な表現で水すべりをはじめるのである。

五小節—八小節

一小節に一つづゝのスケーティングステップを左足から行ふ。出来るだけ自然の動作で表現せしめる。

九小節

スライドクローズ

十小節

スケーティングステップ

十一小節—十六小節

九小節十小節の動作を交互にくりかへす。

注意 唱歌は三番までであるが、動作は變化なしに同様のものをくりかへす。

一二 春の小川

人数 約二三人、一列連手横隊。

歩法 ウオーキングステップ

方法 前奏十六呼間 終り頃にだんだんと連手す。

(一)

春の小川はさらさらながる

一同連手したまま左足より左横に十二歩ウオーキングステップ或はランニングステップで進む。「流る」は十三歩目の左足を左に出すと同時に一同連手をとぎ、兩臂を靜かに左横にながす、この時頭は左に向ける。(尙流す臂は余り高くならぬ様にする事)

岸のすみれや蓮華の花に

再び連手して以上と同じことを右の方向に繰返す。(右足より出發)

にほひめでたく色美しく

一同連手して先頭からだんだんと左の前の方に出て曲の終りまでに一列連手圓形をつくる。(圓心へ向く)

咲けよ

左足より四歩前に出てゆくと同時に連手してゐた手を前より上方にあげてゆく。

咲けよと

その場で足踏をしながら手をだんだんと横に下げて肩を組む。(この時肘をまげない様にする)

おちやく

左足より後へ四つ下る、同時に肩にかけてゐた手はだんだんと一列連手の隊形となる。

如く

(二) 左足よりその場で強く足踏を三つする、手は上下に波をうたせる。(三回だけ)

春の小川はさらさらながる、えびやめだかやこぶなのむれに、今日も一日日向に出でて

遊べ

(一)の色美しくまでの動作と全く同様の動作をする。

1の番號のものが左足より四歩前に出てゆく。

そして連手する。(四人で)(この時連手が余り高くならぬ様にする)

豫め1、2、の番號をかけて置く。

遊べ

1の番號のものが前に向つて左足よりステップし生の連手の中からくぐつて皆で肩を組む、二生が前に進む時は一生はその場で足踏をしてゐる。

おちやく如く

(一)の場合と同動作をする。

(三)

春の小川はさらさらながる、うたの上手ないとしき子供、聲を揃へて小川の歌を

(一)の色美しくまでの動作と同じ。

うゝ

で左足を一步圓の中に出しホップすると同時に右足を後にあげる、手に連手のまま前上
にあげる。

たへ

上つてゐる右足を後にステップし、この足でホップすると同時に左足を膝を伸して前に
あげる、手は連手のままよこへもつてゆく。

うたへと

「うゝたへ」と同動作を繰返す。

ささやく如く

(一)の場合と同様にする。

即ち連手したまま後へ下り(足踏をしてる)足踏を四回すると同時に連手を上下にふる。

一三 舟の旅

一列圓陣

【方法】

(一)

橋の上行く繪日傘日傘

開いた傘を持つたつもりで柄を廻しながら前進、顔を斜左上に向けて良い景色を見なが
ら行く。

岸の櫻は今花盛り

後向して前と同様にしてもとの位置に歸る。

ひら、ひら、ひら散り来る花を

圓内に向き、左手を上舉し、手のひらをひらくさせ乍ら下す。
ひらひらで右手を同様にして下す。

散り来る花をで、両手を上にあげひらひらさせながら左右に下す。
のせて過ぎ行く舟の旅

両手掌を下に向けて前進（圓周上）

(二)

花の村々祭りの盛り

両手前より上にあげ左右に下す、足はホツプステップで前進（人差指のみのばし他は軽く握る。）

かぐら大鼓の音きながら

後向して前と同様もとの位置に戻る。

そよろそよろと吹く春風に

圓心に向き、圓周上にて右足一步横に出し左足をクロススズする、手は體前にて、左下より右上へとまはす、以上を四回くりかへす。

ねむけもよほす舟の旅

一段「のせて過ぎ行く……」に同じ。

(三)

花の紅若葉の緑り

一、二、の番號をつけて置いて、向ひ合ひ、チェーン十六呼間、十五―十六の時舊位置の方向に向き直す。

春の大川霞の中を

チェーンで舊位置にもどる。

七里八里も繪を見る如く

圓心に向き左足一步前に出し、両手にて舟をこぐ様子四回。
すぎて樂しき舟の旅

一段、二段、と同様。

一四 水師營の會見

一列圓形 二人一組、むかひ合ひ。

【方法】

(一)

一小節—十二小節

右手左足からチェインで前進する。

十三小節—十六小節

圓心にむかひ拍手をしながら四歩前進し、同様にしてもとの場所に四歩かへる。

(二)

一小節—十二小節

其の場所からチェインを繼續して前進。

十三小節—十六小節

十二小節の最後に出會つた人と、右手握手してふり、更に左手を握手してふる。

(三)

一小節—十二小節

チェインを行ふこと前の如し。

十三小節—十六小節

右にカーツイ、一回、左に一回

(四)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

奇數生は其の場で拍手。

偶數生は奇數生を歩いてまはる。

(五)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

右手をつないで高くあげてお互いのぞきあふ。

左手をつなぎかへて同様の動作。

(六)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

手腰にして強くスタムプ四回。

(七)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

前半むかひ合つて足踏と拍手、後半、両手をつないで高くあげておろす。

(八)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

両手をつないで時計の針の方向にあるいてまはる。

(九)

一小節—十二小節

同前

十三小節—十六小節

圓心にむかつて四歩前進、次に両手を高くあげて萬歳をしておろす。

一五 海

十二、三人の一行

【歩法】

バランス、ボルカ、ランニング ステップ、ギヤロップ

【方法】

(一)

一小節—八小節 (二十四呼間)

連手して左足より前後にバランスを行ふ。前の時は臂を上舉し、後の時は側に下す様に。

九小節 (三呼間)

左足よりボルカステップを一つ行ふ。その方法は「一ト」で左・右とステップし、「二」で左を更にステップさせ、「三」の時左足でホップし、右膝をまげて前にあげ、兩臂は側にあげてかもめの表現をする。

十小節—十六小節 (二十一呼間)

九小節の動作を行ひながら、左端の人が先頭になり圓を描き、十六小節の終りには元の位置にかへる。

十七小節 (三呼間)

左足より一呼間に二つのランニングステップにて前進。

十八小節 (三呼間)

十七小節の速さで、後退。

十九小節 (三呼間)

左足を後にステップし、この小節に終るまでに右足を次第にひきよせて左足と揃へる。

二十小節—二十二小節 (九呼間)

十七—十九小節をくりかへし行ふ。

(二)

一小節—八小節 (二十四呼間)

第一段と同じ。

九小節 (三呼間)

ギヤロップを左方に三つ行ふ。

十小節 (三呼間)

左足を左にステップし右足を斜左の方に膝を屈けてあげる。

十一小節—十二小節 (六呼間)

九、十小節の動作を右に行ふ。

十三小節—十六小節 (十二呼間)

九—十二小節と同様。

十七小節—二十二小節 (十八小節)

第一段と同じ。

一六 朧 月夜

全體の $\frac{1}{3}$ で内圓を作り、その他の者を外圓として二重の圓形を作り圓の中心に向く。

【方法】

(一)

菜の花畠に

兩臂を側から靜かに上にあげ乍ら、その場で左足から左へ一廻りする。

入日うすれ

圓心に向き兩臂を靜に前から下す。

見渡す山の端

「菜の花畠」と同じ動作を右足から右の方へ行ふ。

霞ふかし

「入日うすれ」に同じ。

春風そよぶく空を見れば

互に手をつなぎ、右上方を眺め乍ら軽く前後に振る。

夕月かゝりて

圓内へ左足から四歩前進すると同時に、連手を靜に上にあげ、右足に體重をかけて體を反らす。

にほひ

手を下ろし乍ら左足から三步退る。

淡し

右足を左足に揃へると同時に、兩臂を體前から交叉して上に舉げ、更に側に下ろして手をつなぐ。

(二)

里わの火影も森の色も

連手のまゝ外圓の者は左足から左へ、内圓のものは右足から右へワルツステップで各々圓周上を歩く。

田中の小路をたどる人も

手をつなぎかへて、圓の外向となり、前と同じ方向にワルツステップで歩く。

蛙の鳴く音も

外圓の者は右足を圓内へ一步ふみ出して體重を移し乍ら右手を頭の側にかさし次第にか



かねの音も

がむ内圓の者は左足を後に引き、左手を頭の側にかさし乍ら體を後に倒す。

外圓の者は靜に立ち上り乍ら體重を左足に移し、右手を下ろし左手を取りかへて體を後に倒す。内圓の者は、右足に體重を移し乍らかゞみ、手を靜にとりかへる。

さながら霞める

内圓及外圓生各々右足を後に引き、右手を大きく前から後に廻す、次に左手を廻し左足を後にひく。

朧月夜

外圓生は左足を圓内へふみ出し互に手をつなぎ乍ら、體重を右足に移し、體を後に反らす、内圓生は左足を圓内にふみ出し兩手を體前で交叉して上にあげる。

一七 故郷

一列圓形

【方法】

うさぎ

右足より三步前にステップし三步目に左足後舉、臂は前より開いて右上左手横。
あひし、かのやまー、小ぶなつりし、

左右交互に、「うさぎ」と同様にして圓周上をまはる。

かのか

左へクロス、オーバー、ターン

はー

右足後にひき體重を左足にかけ、右手前左手横、最後に連手する。

ゆめは、いまも、めぐー、りーて

右足からツイステップ一回、次に左足の膝をまげて前に舉げる、左右交互に以上の動作を尙三回くりかへし圓周上をまわる。

忘れ

圓心へ向き連手のまゝ前に三步ステップし、三步目に左足をかろく後舉し、連手を上にあげる。

がたき

左足から後へ三步ステップし右足ポイントの形。

ふるさ、とー

「忘れがたき」と同じ。

如何に、ゐます、ちしは、はー、つゝがなしや

右足よりツイステップ六回、右足より始める時兩手を右へ流す。

友が

右へクロスオーバーターン

さー

右足後へひき左手前右手横。(以下一番と全く同様、最後に左足ホップし右足舉脱)

ころろ

右足前にステップ左足クロス右足ステップし、ホップして左足舉股、右手前左手横、
さしを、はたしてーいつのひにか

「ころ」と同様。(最後は跳ばない。)

かへらん

右ヘクロスオーバーターン。

山は……ふるさと

一番「ゆめは……めぐりて」までに同じ。

水はきよき

一番「忘れがたき」に同じ。

ふるさ

「水は」に同じ。

とー

左足一步後にステップし體を後に反らせる。

十八 春 風

一列圓形

【方法】

(一)

前奏の間

連手した手を軽く曲に合せて、前後に振る。

ふけそよ／＼ふけ…やなぎの糸に

右方に右足を出し、次に左足を右足につけて踵をあげる。この時手は兩方とも左下から
次第に上にあげ右の方へと進行せしめる。次に右足をもう一步右に出し、左足を其の後
方におき踵をあげる。其の時手は頭上位のところに来たのを更に右下に次第におろす。
恰も春風によつて柳の糸がゆるるやうに。

この動作を更に左、右、左と全部で四回行ふ。

ふけよふけ

右左と前にステップし、次に右をステップして其の足でホップし、左脚後擧する。其の時兩手を胸の前で交叉し、更にこれを頭上にあげ、次に肩の高さまでおろす。
はるかぜよ

ふけよふけと同様の動作を左足からはじめる。

やよはるかぜ……ふけよ

ふけよふけよ以下の動作をくりかへす。

(二)

前奏の間 前と同じ

やよふけよ……この庭に

連手して圓形になり、右左右とステップし、更にホップを加へ、脚は屈膝前擧して、時計の針の反対の方向に進む。そして最後に今迄圓心にむいて進んでゐたのをこんどは圓心に背をむけて進むやうに手をつなぎかへて、進行をつゞける。但し歩法も、方向も前

と同様。これを「かぜふくなよ……さくらの枝に」まで続ける。

ふくなかぜ以下

第一段と同じ動作を行ふ。

十九 幼き頃の思ひ出

二人一組

【方法】

(一)

前奏の間

二生むかひ合つて右手をとり、左足から左右に四回のバランスを行ふ。とり合つた手はバランスを一回することに軽く一回づゝ左右にふられる。

五小節—十二小節

つないでゐた右手はそのまゝにし、左手を前で組み合はせ、二小節内にステップ、ステッ

プ、ステップ、ストレッチの四動作で前進し、これを四回くりかへす。

十三小節—十六小節

左足からバスクステップをはじめめる。

十七小節—二十小節

両生各々外側の足からバランスをし、次に内側の足でバランスをしてむかひ合ひ、更に外側足で三回目のバランスをして、カーツイを行ふ。

(二)

五小節—十二小節

(一)の同節の動作と同様にして、左足から二生がむかひあつた位置を保ちつゝ、時計の針の方向にまはる。この時両手は變形の3を、左足がストレッチされた時には右に、右足がストレッチされたときに左にながす。

この動作を左右で二回くりかへして元の位置にかへる。

十三小節—二十小節

1の同節に於ける動作と全く同様のものをくりかへす。

(三)

右手を連手

五小節—十二小節

(一)の「五小節—十二小節」の歩法で時計の針の方向にまはる。この時つないでゐない手を最初の二小節で横から上にあげ、次の二小節で上から横まで移すといふ風に、歩法が終るまで繰返す。

十三小節—二十小節

(一)・(二)と全く同様。

二〇 荒城の月

自由配列

【方法】

(一)
はるこ

右足より三步前にあるき、左脚を後に擧げる。臂は前から上にあげ、頭の眞上よりも少し左に傾ける。

ろ

左足を後へステップし、右足の踵をあげて、重心を左足に移す。臂は、前の位置からそのまゝのポーズで次第に右へ傾ける。

の

右足を後にステップし、左足の踵をあげて、重心を右足にうつす。臂は、そのまゝはなのえ

左足を側にステップし、右足を左にもつて来てターン。臂は、前から、上にあげる。

ん

左足を左に出し、右膝をまげて前にあげる。この時、左臂を側に、右臂を前にもつてくる。

めぐる

右足を後にステップし、クロスオーバーターンをする。臂は、はじめ側にあげ、次に右手を下にもつてゆく。

さかづき

「めぐる」と同じ。但し「き」の時、體重を後足に托し、臂を側にひらく。

かげさし

「かげ」で、右足を右に出し、臂を側にあげる。「さし」で、左足を右足の前に交叉させ、これに體重を移し、後の右足の踵が上がる様にする。この時、右臂を上、左臂を下にもつてゆく。「し」の終りで右足に踏みかへる。

て

「かげさし」と同じに左へ行ふ。

ちよのま

兩臂を平行にして、前から、右の方に一回まはして、右上に擧げる。同時に右足より斜

右前に三つあるき、「ま」の時に、左脚を後に擧げる。

つが

左足を後にステップし、之に重心を移し、右足の先をつけたまゝで踵を離す。臂は、左臂を側に、右臂を前にもつてくる。

えー

右足を後にステップし、左臂前、右臂を側にあげる。

わけいでし

「ちよのまつがえ」と同様に左へ行ふ。

むかし

右足より斜前に三步出る。兩臂は、左斜下に置いたまゝ。

の

左脚を後にあげ、右臂のみ上にあげる。

ひかりー

「むかしの」と同様に左へ行ふ。

しまさづ

右足より三步後に下り、右足に體重をうつしながら、左足の踵をあげて、兩臂を上にあげる。

こー

兩臂はそのまま、體重を左足にうつす。同時に、體を前に倒す。

間奏

四呼間

臂は前のまゝで、體重を後へうつす。

二呼間

前のポーズにて體重を前へ移す。

六呼間

はじめの二呼間で、右足を左足の前へ持つてきて膝をつき、兩臂を右の方にあげる。

(二)

あきじん

一番の最後のポーズから次第に立ちあがり、右足に重心を置き、左脚を後にあげるこの時、左臂を側に、右臂を上にあげてゆく。

えいの

臂はそのまゝで、左足から三步前に進む。

しものいろ

右臂を前に下し、右足を後にステップし、體重を之に移す。次に左足を後にステップして、之に體重を移し、左臂を前にあげ、右臂を側にあげる。次に、右足を後にステップして、はじめの様にする。

なきゆくかりのかづみせて

「なき」で左足を右足の前に交叉し、兩臂を左にあげる。「ゆく」で、右足を右にステップし、兩手を右に出す。以下、かり、の、かづ、みせ、とこの二動作をくりかへす。「て」のところは、左足を前に交叉して、兩臂を側にあげる。

ううる

左足を左に出し、クロスオーバーターンをする。この時、はじめ兩臂を側にあげ、次に、上にあげる。

つるぎ

「ううる」と同様にターン。

にー

體重を左の足にかけて、兩臂を右に置く。

てりそひしー

右足より、左へ四歩あるいて、ひとまはりする。臂は「にー」の時のまゝで、左上を見ながらする。「しー」の終りで、左足に重心を置き、兩臂を左にもつてゆく。

ひかしのひかり……

以下一番と同様に行ふ。但し、間奏の部分は、後奏にて行ふ。

注意

はるころ

臂は側から持つてゆかずに、前から上にもつてゆくこと。

かけさし

目は左の肩越しに、左の方を見るのであつて、上の手を見るのではない。

ちよのまつがえ、わけいでし

兩臂をまわして、斜前に出るところは元氣よく、大きく臂をふる。

むかしの

右臂を上にもつては、必ず、後脚の後舉と共にふこと。決して、その前には舉げぬ様に。

間奏

體の重心を移動させるところ、及び、膝をまげてかどむところは、曲一杯に動作すること。

こゝは、荒城の跡をたづねて、低徊去るあたはずといふ情緒を出したところであるからその氣持で行ふこと。

しものいろ

この時、前にあげた臂を見る。

なきゆくかりのかづみせて

この時、前の足の膝を屈すること。そして、目は、動作がどうなつても左の方にばかりつける。うらるつるぎに

「うらる」できちんと「まはりすること。一度とまつてから、次のターンに移る。

二二 胡蝶

自由配列

【方法】

前奏の間（四小節）

（蝶のはばたきを意味す）

一小節

左足を左にステップし、第二強聲部で右足を左足前にステップし、最後に弱聲部でふみかへを行ふ。その間に臂は第三の變化形を用ひて左方に流す。

二小節

右足より前と同じ歩法を行ふ。従つて臂の動きは右に移る。

三小節—四小節

一・二小節をくりかへす。

(一)

五小節

左足からステップを三つ行ひ、後半でホップを左足ふみ切りで行ふ。

この時臂は第四の變化形を左にて用ふ。

六小節

右足から五小節と同様の動作を行ふ。但し臂は第四の變化形を右に行ふ。

七小節—十二小節

五・六小節と同様のものを更に三回づゝくりかへす。

以上の動作は蝶がとんでゐるところなので任意の方向に行ふ。

十三小節

左足前にステップクローズ、後半の最初の左足前にステップ、最後に右足後舉手は前半には第五變化形、後半になつて第四變化形の左に變る。

十四小節

同じ動作を右足よりはじめる。

十五小節—十六小節

十三・十四小節と同じ。

十七小節

臂は第一基本形を上下に軽く動かし乍ら、足先にてステップターンを行ふ。

十八小節

十七小節の動作を繼續して行ふ。

十九小節

左、右、左と三つ前方にステップし、其の間に両手を腰のあたりまでさげ、次に右足を後舉すると同時に、兩臂を横から上にあげて第五の基本形となる。

二十小節以下終りまで

後舉された足は靜かに下におろし、最後の伴奏のところ、兩臂も上から靜かにさげられて、第三の變化形の左に移る。

(二)

五小節—十二小節

(一)の五小節から十二小節迄の動作と同じ。但し此の場合前半四小節は、最初指導者によつて指定せられた十八人前後の人数にて圓形が形作られるやうに時計の針の反對の方向に進み、後半の四小節は、圓心に背をむけて、同歩法を繼續する。

十三小節—十九小節

(一)と同じ

二十小節以下

靜かに佇立して、兩臂は第一變化形の下方に移し、蝶は動きを中止して花に休む。

二二二 菊

二人組一列圓形。

【歩法】

バランス

【方法】

(一)

には

圓の中心へ向いて手をつなぎ、そのまま右向の姿勢をとり、右足を前に一つステップすると共に、左の膝を屈げて前に擧げる。

のちぐー

左足を前にステップし、右足を更に前にステップし、次に左足をステップすると同時に右膝を屈げて前にあげる。

よも

つないでゐた手をはなし、めい／＼が臂を側にあげたまゝで右足を前にステップすると共に、左膝を屈げて前にあげる。この時、皆圓の外側向になり、手をつなぐ

むーしーのねーもー

「にはのちぐさも」と同様の動作を、左足からはじめる。即ち「ちー」の終りには、再び圓の内側向きとなる。

かれてさびーしくなーりーにけーりー

「にはのちぐさもむしのねも」と同じ動作を繰返す。

ああ

手をつないだまゝ圓の中心へ向き、そのつないでゐる臂を前から上にあげながら右足を前にステップし、左脚を後にあげる。

しら

あげた臂を側に下しながら、左足を後にステップして、右膝を屈げて前に擧げる。

ぎーくー

つないだ手を離して、右、左、右と圓の中心へ進み、この終りの右足を出すと同時に左へまはつて圓の外側向となり、右足に重心をうつし、左足の踵をあげて足首をのぼす。

あゝしらーぎーくー

圓の外側へ向いたまゝで手をつなぎ、前の「あゝしらぎく」と同様の動作を左足からはじめる。即ち、この動作の終りには元の圓形に歸るわけである。但し、「く」のところは、兩臂を上にあげ、右膝を屈げて、前にあげる。

ひとりち

圓の中心へ向いたまゝ、右足より右にバランスにて、スウエーを一つする。

くーれて

同様に、左へスウエーを行ふ。

さーさーにけーりー

「ひとりおくれて」と全く同じ動作で行ふ。

(二)

つゆにたわーむやきーくーのはーなー
しもにおごーるやきーくーのはーなー

「にはのちぐさ……なりにけり。」と同じ動作を行ふ。

あゝ

手を離し、両手を右上肩の高さ位にあげながら、右足を右にステップし、左脚を後にあげる。

あ

左足を左にステップし、右膝を屈けて前にあげる。この時、両手を左に移す。

はれあ

両手を側から上にあげながら、右足を右にステップし、クロスオヴァーターンを一つする。

はれ

右足を後へステップし、左膝を屈けて前にあげる。両臂は右へもつてくる。

ああしらーぎーくー

「あゝあはれあはれ」と同様に、左足から行ふ。

ひとのみ

こゝから、一番生と二番生が各々異つた動作をする。

一番生

圓の中心を向いたまゝ、右足よりバランスにて、スウエーを行ふ。

二番生

右足より、圓の中心へ向ひ、一八〇度のステップターンを四つ行ふ。

さーをも

一番生

圓の中心を向いたまゝ、左足よりバランスをして、スウエーをする。

二番生

右足を前にステップすると共に、兩臂を側から上に挙げる。

かーくーて

一番生

右足を前にステップして、兩臂を側から上にあげる。

二番生

「さーをも」の時のポーズのまま、しやがむ

こーそー

一番生

左足に體重を移し、しやがむ。

二番生

立ちあがり、臂は前より上にあげその先を心もち開く。

二三 寧樂の都

一列圓形連手、左足後にひいてしやがむ、十人一組にするため十の番號をかけてをく

【方法】

(一)

一小節—四小節 (二十四呼間)

體を靜かに起して立ち上る。

五小節—八小節

左足より圓周上手をとり、短い屈膝舉股で六步ステップし、八小節目で左足をオーヴ

アーして交叉回轉、この時連手をとく。

九小節—十二小節

五小節より八小節までの動作をとりかへす。

十三小節—十四小節

連手して圓心へむき、右足は圓心にむかつてステップし、之に體重をかけ、最後に體重を後に移す。

十五小節—二十小節

圓心にむかつてウオーキングステップで十人づゝの小さい圓に分れる。

二十一小節

右足一步前舉踵、左足後舉、兩手斜上にあげる。

二十二小節

左足後にステップ、右脚屈膝舉股、臂は第四基本形。

二十三小節

右足右側に下し、左脚後舉、右手體前より上に舉げ、左手は横に下すと同時に、右に廻轉

二十四小節

左足一步前にステップ、右脚後舉と同時に右手側、左上上にあげる。

二十五小節—二十六小節

右足から四歩前進、此のウオーキングステップは上から降りる心持で膝の屈伸を利かす。
臂は第三の變化形を右後に行つて波打たせる。

二十小節—二十八小節

二十五・二十六小節と同じ、但し臂は同じく第三の變化形を左後に行ふ。

二十九小節—三十二小節

二十五小節から二十八小節までの動作に同じ。

そしてこの二十五小節以下の動作の間に小さい圓から元の大きい圓にもどる。

三十三小節—三十四小節

この間に左足を後にひいてしづかにしやがむ。

(二)

一小節—四小節

(一)の動作に同じ。

五小節—八小節

(一)の動作に同じ。

九小節—十二小節

(一)の動作に同じ。

十三小節—十四小節

兩足をそろへて圓心にむかつて立ち、兩手體前にて交叉して上に挙げ、横から下して連手する。

十五小節—二十小節

ウォーキングステップで圓心にむかつて十人づゝの小さい圓に分れる。

二十一小節—二十二小節

奇數生が右足から圓心にむかつて三步前進し、臂は前から上にあげ横におろすと共に體重を後にあげる。

二十三小節—二十四小節

偶數生は前と同じやうに三步前進し、奇數生の中間に入り、體重を後にうつす、臂の動きは奇數生の場合と全く同じ。

二十五小節—二十八小節

一同肩にかかるく手をかけ合ひ、胸をそらして右に進む、一小節にステップ・クロスを一回づゝ行ふ。

二十九小節—三十二小節

二十五小節から二十八小節までの動作を左足から左に行ふ。

三十三小節—二十四小節

肩に手をとつたまゝ右足を横に出し、左膝をついて體を深くまげる。

二四 秋の夕暮

一列圓形 圓心へ向く 連手、

【方法】

(一)

花はもみぢーも

兩手を横から上に靜に上げる、「イーもー」で横に下げる。

及ぶものかーはー

「か」まで上にあげ、「アーはー」で下す。(連手)

裏の苦屋の

右にむき、右足から八歩ステップ。

秋の夕

右足一步圓心の方にステップし、圓心へ向いて靜に片膝立の姿勢になり、虫の聲に聞入る様子。

暮

體重を左足にかけて起上り右足をひきよせる。

(二)

花やもみぢ

「み」まで五歩右足から圓心に向つてステップ、兩手を前より上に舉げ、「ち」で片膝立の姿勢をとり、

「イーもー」

體を左にまげ、更に右に屈げる。

及ぶ

前に首を垂れ、互に手を肩に組み合ふ。

もの

體重左足にかけて起上る。

かは

右足から後へ四歩下り五歩目に右足を引きよせる。

裏の苦屋の

一番に同じ。

秋の夕

右へクロス・オーバー・ターン、兩手を前から上に舉げ、「ゆふ」までに横から靜かに下す。最後に圓周上を歩く方向に向く。

暮

左上上・右手前・右足屈膝舉股、かゝしのポーズ。

(三)

花やもみぢ

右足から右へ百八十度のステップブターン五回。

イーもー

「ちー」で右足に體重をかけ、右に両手を動かし左を見る。「もー」で反対に同様のことを行ふ。

及ぶものかは

くりかへす。

裏の苫屋の

一番に同じ。

秋の夕

連手のまゝ右足前にステップし静にひさまづく。

暮

頭を起し膝立の姿勢になる。

第四章 行進遊戯

1	象	(尋一・二)	12	ブレイキング	(同)
2	友さがし	(同)	13	ぶらんこ	(尋五・六)
3	縫ふてゆく	(同)	14	仲よし	(同)
4	かたつむり	(同)	15	マウンティンマーチ	(同)
5	私のまね	(同)	16	スケーティング	(同)
6	シーソー	(同)	17	ブラックナッグ	(同)
7	ことろ	(尋三・四)	18	クラップダンス	(同)
8	ごあいさつ	(同)	19	リチカ	(高小一・二高女一)
9	ひきくら	(同)	20	ヴァルソヴィーナ	(高小一・二)
10	鬼ごっこ	(同)	21	アイリッシュユルト	(高小一・二女一)
11	かげぼうし	(同)	22	ヴァンヤード	(高小一・二)

23	ボルカセリーズ	(高小一・二女師一)	29	クッドリル	(高女四・五女師四・五)
24	ギャザリングピースコーツ	(高小一・二高女二・三女師二・三)	30	カマリンスカイヤ	(高女四・五女師二・三)
25	ツロイカ	(高女一)	31	ポビー	(同)
26	スコッチキヤップ	(高女二・三女師一)	32	ミニュエット	(高女四・五女師四・五)
27	マヅルカ	(高女二・三・女師二・三)	33	ファウスト	(同)
28	グリーディング	(同)	34	インザウェイブス	(同)

一 象

二列圓形又は自由配列、

【方法】

一小節—四小節(十六呼間)

一小節に四歩づゝの割で曲に合はせ、四つ這ひになつて歩く。

注意 但し一回で動作は終らずに、相當の時間くりかへして兒童が満足するまで行ふ。

二 友 探 し

二列圓形 前後列のものむかひ合ふ。

【方法】

一小節(四呼間)

二生むかひ合つて一で兩手をもつて兩股をかるく打ち、二で各自拍手を體の前で行ふ。

三で二生が互に兩手を打ち合はせる。四は休み。

二小節

一小節と同様の動作をくりかへし行ふ。

三小節

一で兩股を打ち、二で自分の手を打ち、三で互に左手を打合せ、四で自身拍手。

四小節

一で相手と左手拍手、二で自分自身拍手、三で相手と兩手を打合はせる。

一小節—四小節（くりかへしの分）

前の動作をもう一度行ふ。

五小節—八小節

圓の外側のもも内側のもも共に連手して各左の方にギヤロップを行ひ、曲の終つたとき自分の前に来たものと新しい組を作つて、同様の動作をくりかへす。

三 縫ふて行く

人数に制限は無いが、大抵八人から十人前後の所が一番遊びとして面白い。連手して一列のラインになる。

【歩法】

ランニングステップ

【方法】

先づ十人を一組にして行ふ。

音楽がはじまると共に一番の児童は二番三番の児童を後に従へて連手のまゝ列の前を進み、九番と十番の連手の下をくぐつて反対側、即ち列の後を通つて元の位置にかへる。九番と十番のものは前と反対側のむきになる。さうすると九番は、自分の手を胸の前で交叉させる事になる。

更に一番は前と同様の動作をくりかへして九番と八番との連手の下をくぐつて元の位置にかへる。かうしてくりかへして行くと、最後には二番より十番までの各生が胸の前で、各々その手を交叉させる事になる。一番が最後に自分のつないだ手の下をくぐつて全部反対側に向いて手を交叉させる。

全部終つたら手をはなして廻れ右をし、新しい先頭を決めてくりかへす。

曲は常に全部の児童が終る迄くりかへす。

四 かたつむり

十五人位一組一列にして連手

【方法】

一小節—二十三小節（四十六呼間）

一番生が先頭になつて渦巻行進を行ふ。

二十四小節（二呼間）

全生後向になり、蹲んで前生の肩に両手をかける。この時、先頭は両手を握つてかたつむりの角の様に斜上にあげる。

一小節—二十四小節（四十八呼間）

蹲んだまゝで先頭の進む方向に渦巻を解く。

五 私のもね

リーダーを一人定めて置く。これには最も創作的色彩の強い子供がよい。そして誰もが、其の子の動作に注目しやすい位置に立たせて置く。

【歩法】

ウォーキングステップ ランニングステップ

【方法】

一小節—四小節（十六呼間）

曲によく合ふやうにして、一小節の間に、四つの割でウォーキングステップを行ふ。

五小節—八小節（十六呼間）

一小節に八つの割で、ランニングステップを行ふ。

九小節（四呼間）

九小節の前半で止り、後半はリーダーの案出した動作を行ふ。

六 シーソー

三人一組。

【歩法】

スキップ

【方法】

一小節—四小節（八呼間）

三人の中、中央のものは臂を側舉し、兩端の者はその手につかまる。初めの二呼間で中央の者は體を右にまげる。左端の者は背のびをし、右端の者はしやがむ。次に、左屈し、又右、左と屈げ、全部で四回行ふ。

五小節—八小節（八呼間）

右端の者はスキップにて他の二人の前を通り左端の者の左へゆく。この時他の二人は手をたたく。

九小節—十六小節（十六呼間）

一—八小節と同じ動作を行ふ。この時の中央の者は、初めの左端の者となる。

十七小節—二十四小節（十六呼間）

一—八小節と同じ動作を行ふ。この時の中央の者は、初めの右端の者である。

二十五小節—三十二小節（十六呼間）

三人とも右手を出して中央でつなぎ、スキップでまはり、最後に一番はじめの様にならぶ。

七 ことろ

三人一組、一人は鬼。

【方法】

鬼は他の二人とむかひあひ、他の二人は前後に重つて子になる。兒童は親の後にゐて、親の胸のたすきなどにつかまつてゐる。

二小節（くりかへしをいれて八呼間）

親と鬼とはむかひあつて、片足でスタムプをしながら、拍手を四回する。

三小節—四小節

鬼は左にステップ、ステップ、ステップホップ。この最後のホップのとき鬼はいかにも子を掴みさうな表現。

この間に親と子は鬼と同方向即ち右方にステップ、ステップ、ステップ、ホップ。親は

両手をひろげて鬼をふせぐ。

五小節—六小節

三、四小節と同様の動作を反対側に行ふ。

七小節—十小節

親はいきなり子の手をとつて、スキップで逃げ出す。その時鬼は大急ぎで、ステップでおひかけるやうな表現動作をする。

十一小節—十二小節

一小節—二小節の動作をくりかへす。
三小節以下を更に一度くりかへして、十小節で動作が終結するものであるが、この場合鬼は子を捕へるように努力し、若し曲の中途でとらへたならば三人一緒になつてステップを曲の終るまで繼續する。

八 ごあいさつ

一列圓形、相手と向ひあふ。

【歩法】

スキップ

【方法】

第一段

一小節—二小節（六呼間）

内側のものが子供らしいカーツイを行ふ。

三小節—四小節（六呼間）

外側のものがカーツイを行ふ。

五小節—六小節（六呼間）

内側のものは両手を前にさし出して相手の手を求める。この時掌は上をむく。

七小節—八小節（六呼間）

外側の相手は今相手のさし出した手の上に両手を置く。

第二段

一小節—八小節（二十四呼間）

各自先頭の方を向き、内側の手をつなぎ外側の手は腰にとり、又はスカートの端をつまんで、スキップで圓周の上を前進する。

九 ひきくら

八人一組

【方法】

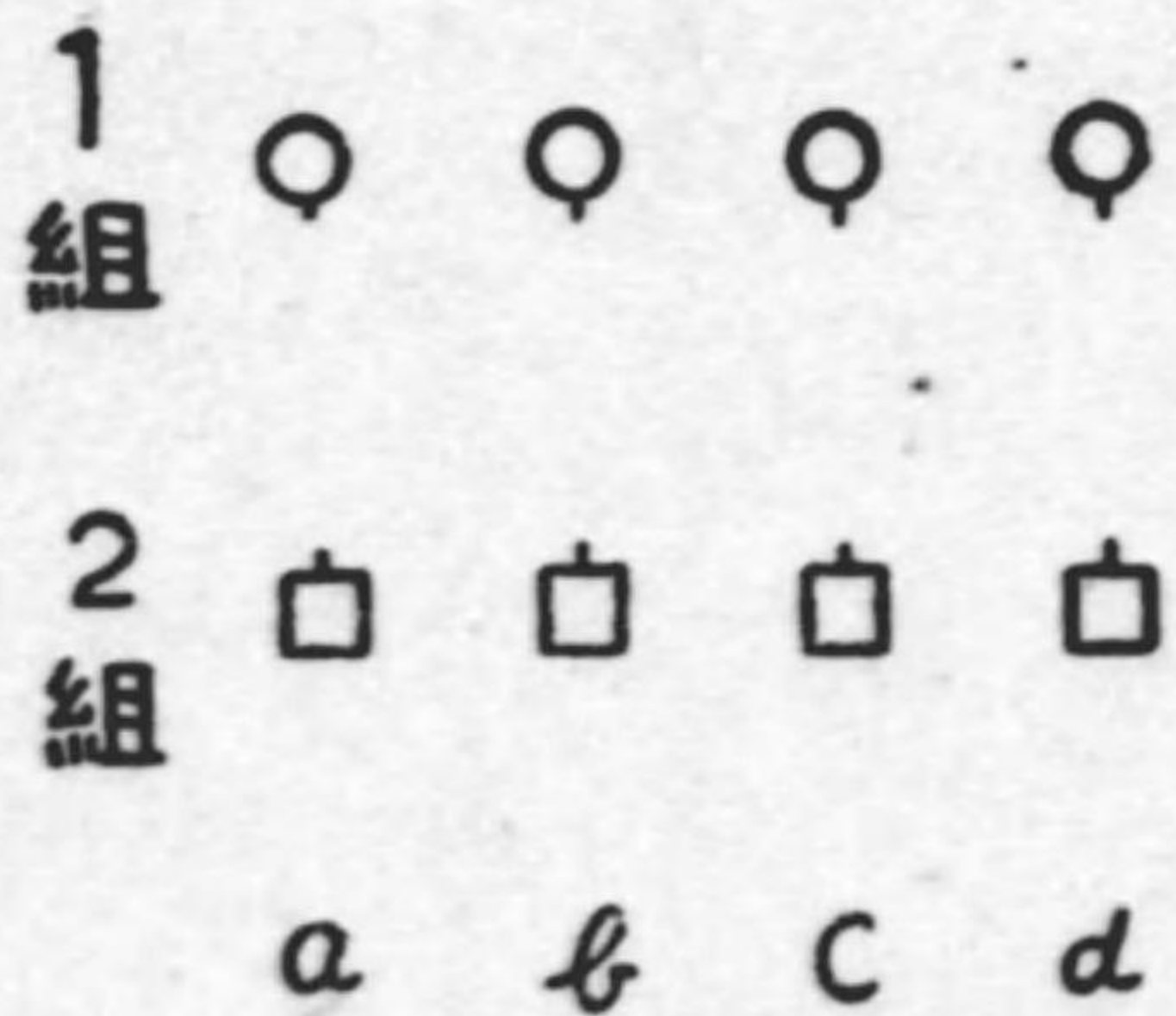
四人づゝ連手。

一小節—二小節（四呼間）

一組が三步前にステップ、四歩目に後にクローズ。

三小節—四小節（四呼間）

一組は後へ三步退り四歩目で後にクローズ。



五小節—八小節（八呼間）

二組の者が一組と同様に一小節から四小節までの動作をくりかへす。

一小節—二小節（四呼間）

兩組のaの者が前に三步出て手をしつかり握り合ふ。

三小節—六小節（八呼間）

引張り合つて相手を自分の組の方に引ばり込む。

七小節—八小節（四呼間）

勝つた方が拍手しつゝ足踏をする。

勝つた方は五人になる、次に又始めからくりかへしてbが引張り合ひをする、かうして四回くりかへす。

10 鬼ごっこ

二人一組、内側の手を取らせる。

【歩法】

ランニングステップ

【方法】

一小節—六小節（十八呼間）

自由方向に右足から三步のランニングステップで前進し、四歩目は大きく跳んで兩足で止り、二呼間休む。以上の動作を更に二回くりかへす。

七小節—八小節（六呼間）

鬼は前と同じ動作をし、逃げる者はランニングステップを六呼間続けて前に進む。従つて二人は前後に離れる。

九小節—十六小節（二十四呼間）

三呼間に一回づゝ兩臂を前から交叉して上にあげ、側から下し乍らランニングステップで鬼ごっこ。

一小節—八小節（二十四呼間）

前の一小節から八小節までの動作をくりかへす。但し最後に二人は離れないで止る。

注意

1. 習熟すれば九小節から十六小節までの所はワルツランで行ふと面白い。
2. 続けて行ふ時は八小節で二人が離れ、九小節から再び鬼ごっこをする。

一一 かげぼうし

自由配列

【歩法】

【方法】

一小節（四呼間）

前にある自分の影が動いて行くのに興味を感じつゝ軽くそつと四つのステップで前に進む。

二小節（四呼間）

小さい駆歩で前方に強く走る。餘り勢こんで走つた爲に途中影を見失つたので二小節の最後では一寸見失つた影を探す様な様子をする。

三小節（四呼間）

二小節と同様の動作をくりかへす。

四小節—五小節（八呼間）

前の動作で影を追ひかけて行くと、影に逃げられて一寸弄ばれた形となつたので、この小節では子供らしい幾分の憤を交へて、影を踏みつけにかゝる。それは一小節に三つの強いそして表情的なステップで行ふ。然しこのステップは多少變化して取扱ふがよい。

六小節（四呼間）

影の方を向いて、両手を頭上に高く舉げて、長い影を作りこれを見乍ら、元の場所にか
け足で退く。

七小節（四呼間）

出来るだけ背を低くして小さい影を地に描き乍らその場でまはる。

八小節—九小節（八呼間）

左足で踏み切つてリープし（右足着陸）左足をそろへる。この動作を二小節に四回行ふ。

十小節—十二小節（十二呼間）

最初の小節の前半（二呼間）右、左と二歩斜前にふみ出し、三步目の足から反対側にむいて出来る丈け今迄の態度と反対に如何にも影に無關心な様子をして歩いて歸る。

一二一 ブレーキング

二人一組一列圓形

【歩法】

ホップワルツ

【方法】

相手と向ひ合つて両手をつなぎ、これを肩の高さに保つてゆく。

一小節（二呼間）

前半

ジャムプし着陸と同時に右足を前に出し、踵だけを床につける。その時つないだ右手

は肘を伸ばして前に出し、左手は肘から屈けて後にひき、胴は稍々左の方にまわす。
後半

ジツムプして着陸と同時に足と手をかへ、前と同様の動作を行ふ。つまり左踵が前におき、左肘をのぼし、右肘を屈げ、體を稍々右にまわす。

二小節（二呼間）

前と同じ動作を二呼間に三回行ふ。（右、左、右）即ち前半に二回、後半に一回して一回分だけ休む。

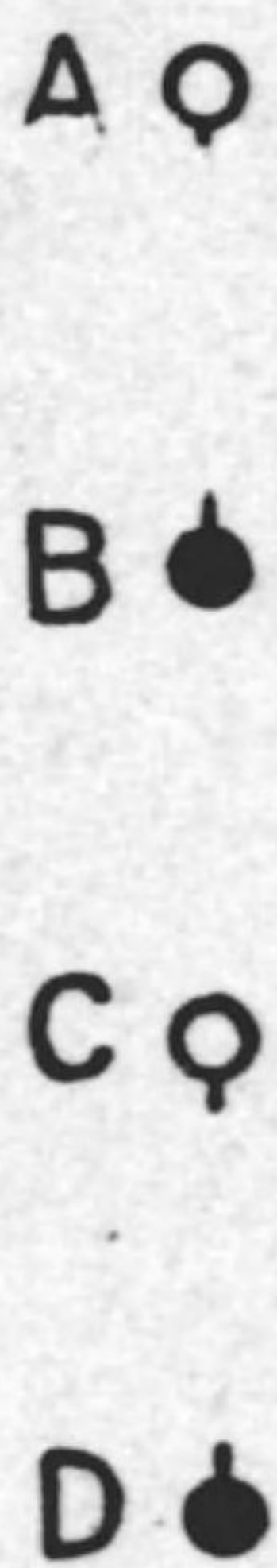
三小節—八小節（十二呼間）

一、二小節と同様の動作を三回繰返す。

九小節—十六小節（十六呼間）

右腕を組み、互に外側に體をひく様にし左臂を上へ伸ばしてホップワルツ四つで時計の針の方向に廻り、腕を組みかへてホップワルツ三つで時計の針と反対の方に廻つて位置をかへる。即ちホップワルツ三步で三回まわり、四回目の時に前のものゝ位置へ移る。

前のものゝ場所とは



Aに對するC、Bに對するDをさす。

一三 ぶらんこ

三人一組a、b二人が兩手をつないでブランコをつくり、c一人が乗手になる。

【方法】

一小節—四小節（八呼間）

cはa、bの繋いだ手を三回ゆすぶり、四回目にブランコをくゞつて次のブランコの前に出る。

五小節—八小節（八呼間）

次のブランコでは一—四小節と同様。

九小節—十小節（四呼間）

その次のブランコを一回ゆすぶり、二回目にくゞる。

十一小節—十二小節（四呼間）

次のブランコでは九—十小節に同じ。

十三小節—十六小節（八呼間）

ゆすぶると同時にくゞつて次に行く。（四つ先のブランコの前に行く）

十七小節—二十小節

始めより八組目のブランコの人と三人連手して左へステップ、クローズ二回でまわる、次には又又はりが乗手になる。

一四 仲よし

二人一組

【歩法】

ランニングステップ ブラッシュ、カーツイ。

【方法】

一小節（三呼間）

二人連手外側の手はスカートを持つ。各生外足でブラッシュ、二呼間やすみ、ブラッシュした足は膝も足首も屈けてあげる。二人顔を見合はせる。

二小節（三呼間）

外足から前に三つランニングステップ、顔は正面。

三小節—四小節（六呼間）

内足から一—二小節をくりかへす。顔は外側。

五小節—八小節（十二呼間）

以上十二呼間をくりかへす。

九小節—十小節（六呼間）

左生左向、右生右向をして小さいランニングステップで兩側に別れる。

十一小節—十二小節（六呼間）

正面を向き各生内側の手で相手を招く。

十三小節—十四小節

小さいランニングステップで元に戻り、向ひ合ふ。

十五小節—十六小節（六呼間）

内足を横にステップし外足を後にひきよせ、體重を後にかけてカーツイ。

十七小節—二十四小節（二十四呼間）

両手をとり合ひ、内足よりステップ、ホップ、ホップで時計の針と同じ方向に一廻り、

ホップの時他の足を横に挙げる。

第二回目は内足より始める。

一五 マウンティンマーチ

三人一組

【歩法】

ワルツラン ランニングステップ

【方法】

三角形に位置し、先頭は兩臂を後方に伸ばし、後の二人は各内側の手をつなぎ、その外側の手を先頭の手と連ねる。

一小節—八小節（四十八呼間くりかへしも入る）

三人揃つて左足から斜左前方にワルツランで進み、次に右斜前方に進む。之を繰り返して行ふ。第一歩はつよくリドブしてアクセントをつける。

九小節—十六小節（六呼間）

先頭は後の二人がつないで居る手の下を潜つて其の後に出る。その際、後の二人はつないだ手を高く舉げてくゞりやすくする。

十一小節—十二小節（六呼間）

左側の人は自轉しながら他の二人の連手の下を潜る。

十三小節—十四小節（六呼間）

右側の人は先頭と自分との連手の下を潜る。

十五小節—十六小節（六呼間）

先頭は自分と左生との連手の下を潜りながら右廻りして、舊の三角形にかへる。この九小節から十六小節迄の二十四呼間は動作をしない人も、軽く駈歩足踏をしながら、他の人の動作に都合のいい様に手を挙げたり、軽く引いたりして、便宜を與へ合ふ。

九小節—十六小節（二十四呼間くりかへしの分）

先の九小節から十六小節迄の動作をくりかへす。

一六 スケートィング

二列側面圓形

各伍は右手を右生の肩の上でつなぎ、左手を左生の體の前でつなぐ。

【方法】

一小節—二小節（八呼間）

左足から二歩前進し、三步目をスライドで進み、その足でホップする。反対の脚は後ろに挙げる。次は右足から行ふ。

三小節—四小節（八呼間）

左足をスライドし、ホップする。この時、右脚は後ろに挙げる。次に右足をスライドし、ホップを行ふ。以上の動作を繰返した後二人は向合ふ。

五小節—六小節（八呼間）

一で左足を右に出し、二で右足を左足に揃へ、三で更に左足を左に出し、四で左足をホップする。この際、右脚を前に挙げる。次にこの動作を右足から右側の方に繰返す。

七小節—八小節（八呼間）

各位は右手をつなぎ、左足からその場で四歩で一週りする。終りに最初出發の時の姿勢にかへる。

九小節—十六小節（三十二呼間）

一—八小節迄の動作を繰返して行ふ。

注意 1.特に動作を自然に圓滑に行ふこと。

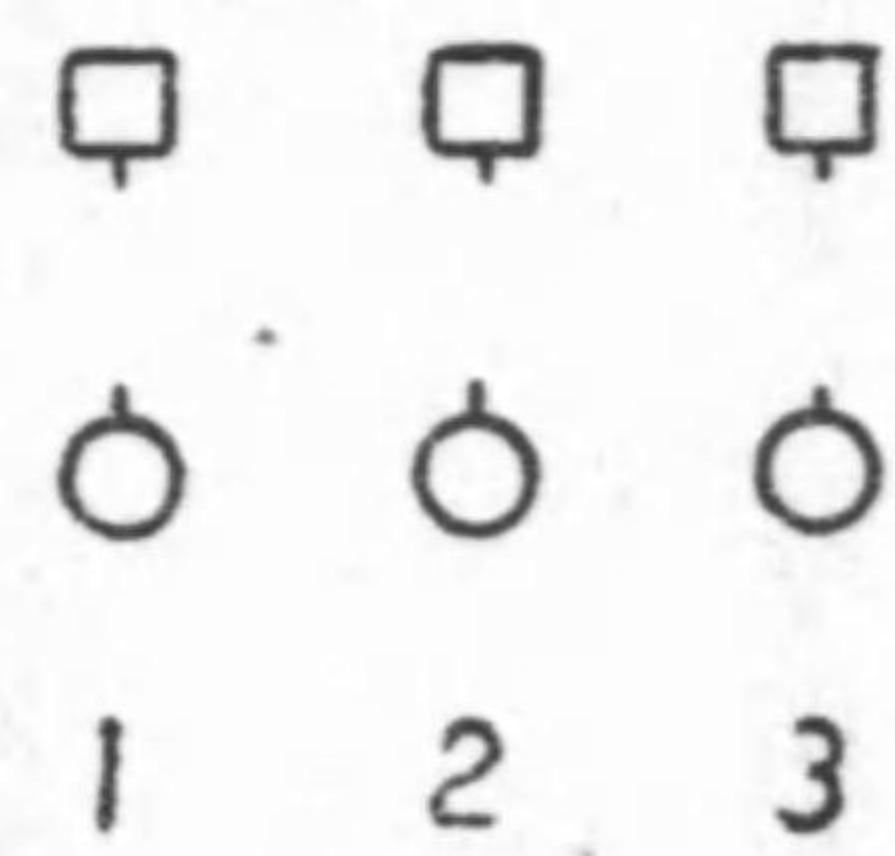
2.スライド後のホップの時は、體をよく伸し巧に平均をとつて行ふこと。

一七 ブラックナッグ

六人一組

【歩法】

スリップ ランニングステップ スキップ



【方法】

第一段

一小節—二小節（四呼間）

全部先頭の方を向いて外側の足からランニングステップで前に進む。

三小節—四小節（四呼間）

ランニングステップで後に退いて元の位置にかへる。

五小節—八小節（八呼間）

一小節—四小節までをくりかへす、この最後に各組自分の相手と向ひ合ふ様にする。

十一小節—十二小節（四呼間）

二の二人が一の後を追つて四つのスリップを行ふ。

十三小節—十四小節（四呼間）

三の者が前と同様にスリップを行ふ。

十五小節—十六小節（四呼間）

皆一緒に外側の方にその場で廻轉する、ステップ四つで行ふ。

九小節—十六小節（くりかへし十六呼間）

三の二人から始めて同じ動作を行ふ、そして三組とも元の位置にかへつて外側に一廻りして終る。

第二段

一小節—二小節（四呼間）

相手と向ひ合ひ下圖の如く矢の示す方向に右足からランニングステップ四つで進む。但四歩目で踏替を行ふ。

三小節—四小節（四呼間）

各自左の方にまはつて向きを換へ、いま来た道を通つて元の位置にかへる。

五小節—六小節（四呼間）

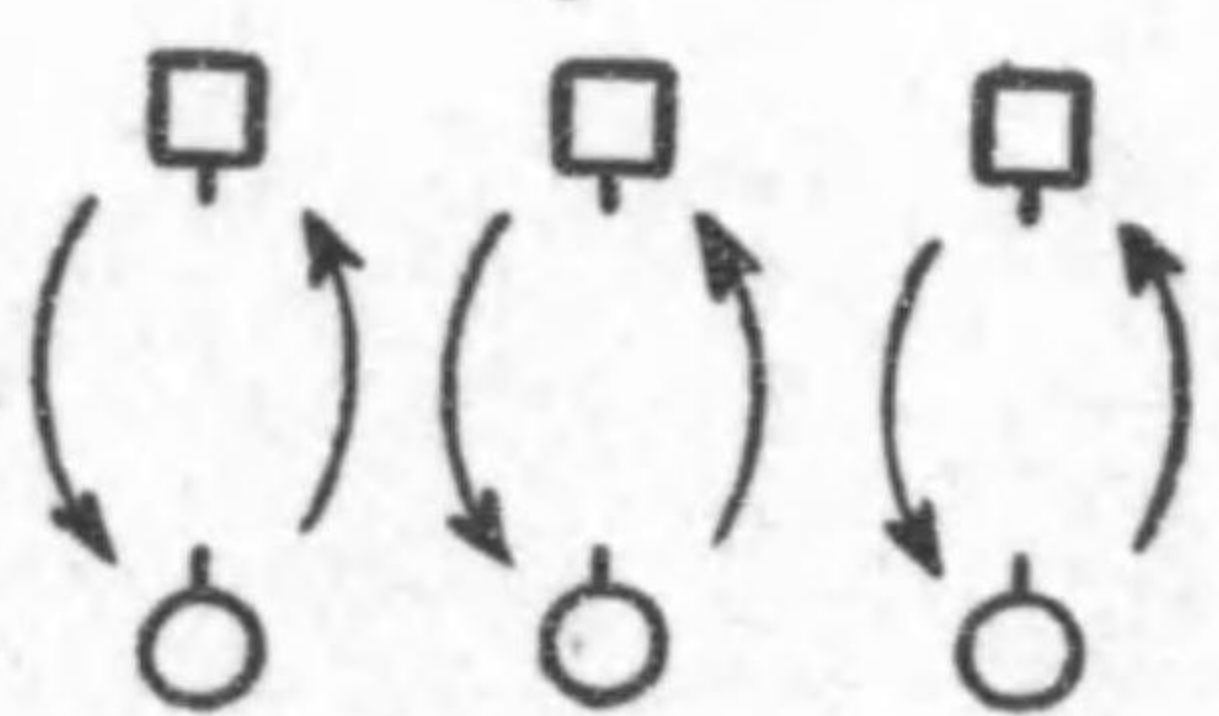
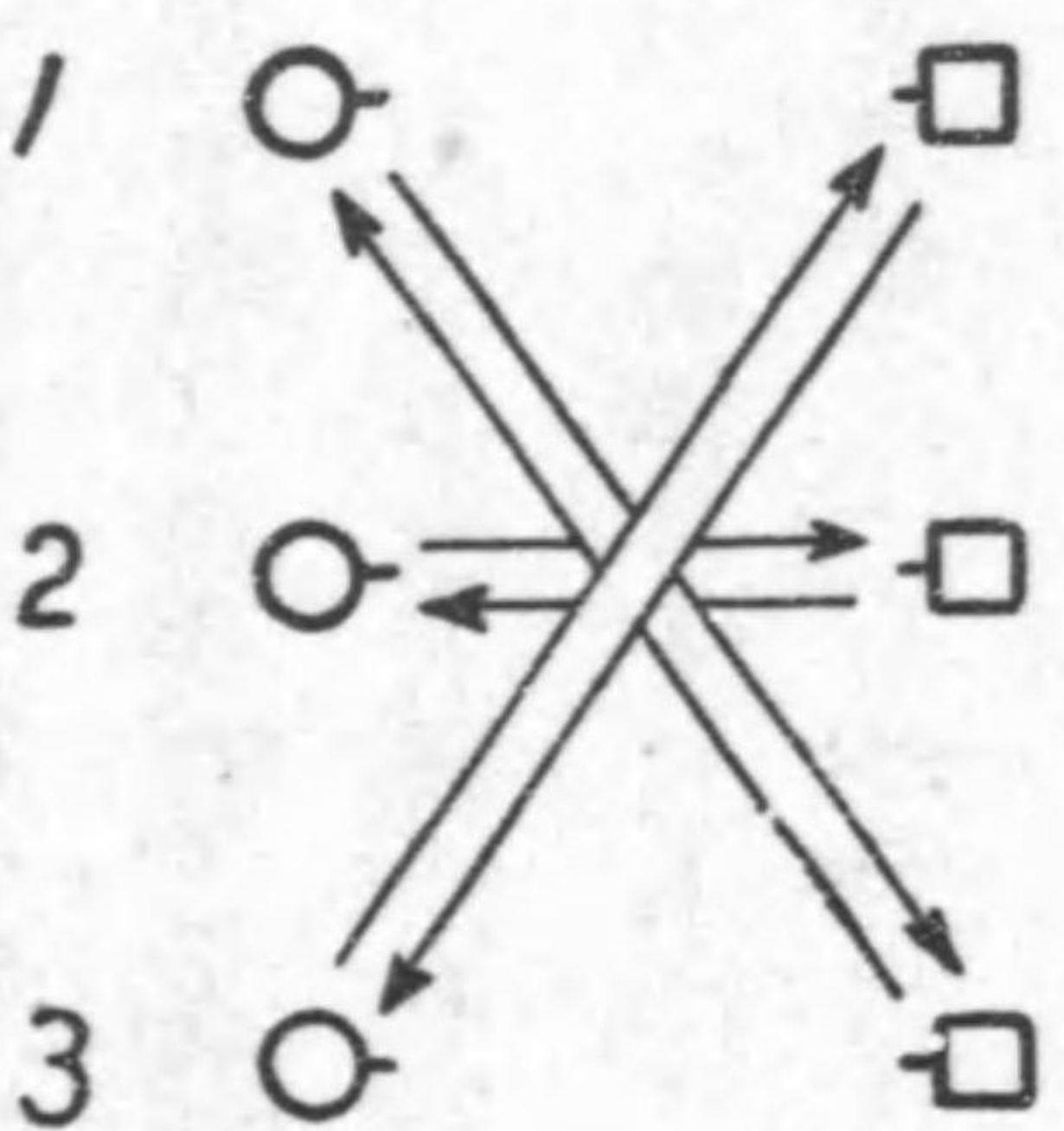
一小節から四小節迄をくりかへす。

九小節—十小節（四呼間）

圖の様に一の右生と三の右生が位置を交換する、各自右足からスライドを始めて途中この二人は背中がすれ合ふ様にして通過する。

十一小節—十二小節（四呼間）

一の右生と三の右生が位置をかへる。



十三小節—十四小節（四呼間）

二の左右生が位置をかへる。

十五小節—十六小節（四呼間）

全體右にその場で一まはりする。

九小節—十六小節

前の九小節から十六小節までと同様の動作をくりかへして元の位置にかへる。

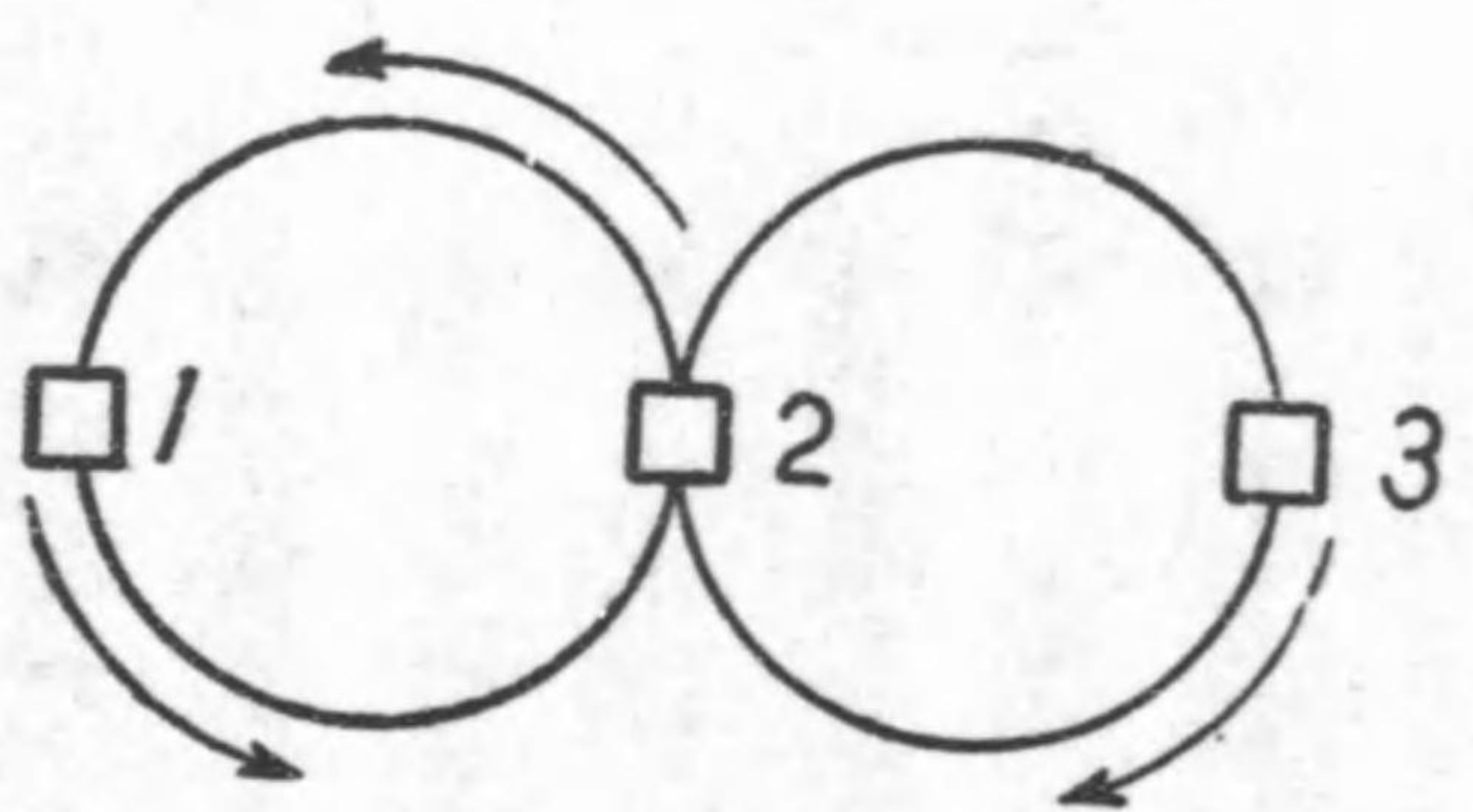
第三段

一小節—四小節（八呼間）

右足から駈歩で前進し、相手と左肘を組んで一まはりして元の位置にかへる。

五小節—八小節（八呼間）

駈歩で前進相手と右肘を組んで一廻りして元の位置にかへる。



九小節—十六小節（十六呼間）

左生の側の者が8の字を描く様にして運動を始める。即ち右圖の様に一、二、三の者はすべて矢の方向に右足からスキップで進むのであるが元二番の居た所が中央通過の場所となり、一も三も必ずそこを通過する。先づ二の出發したあとを一が通過し、一の後を三が通過する様にして各々矢の方向に進み自分の位置にかへる。

九小節—十六小節（くりかへし十六呼間）

前と同様の動作を右生の方が行ふ。

一八 クラップダンス

二人一組一列圓形

【歩法】

ヒールエンドトールカ カーツイ パウ ランニングステップ スタムプ

【方法】

先頭の方に向き、相手と内側の手をつなぎ外側の手はスカート又は腰に。

第一段

一小節（二呼間）

前半、各々外側の足を前に出し、踵を床につけ、體を後に倒す。

後半、前に出した足を更に後に出して足先を床につけ、體を前に倒す、この時體重をうまく移動させる事。

二小節（二呼間）

外側の足から前にポルカステップを行ふ。

三小節（二呼間）

前半、内側の足を前に出し、踵を床につけ體を後に倒す。

後半、内側の足を後にひき、足先を床につけ體を前に倒す。

四小節（二呼間）

ポルカステップを行ふ。

五小節—八小節（八呼間）

一小節から四小節までをくりかへす。

一小節—八小節（くりかへし十六呼間）

一小節—八小節迄をくりかへす。

第二段

九小節（二呼間）

相手と向ひ合ひ共に先頭の方にステップをし、次の足をそろへると共におじぎをする、
女子のは所謂カーツイ、男児のはパウ。

十小節（二呼間）

前の人と拍手三度。

十一小節（二呼間）

相手と向ひ合つてお辭儀。

十二小節（二呼間）

前の人と三度拍手。

十三小節（二呼間）

自分一人で拍手一回、次に互に、右手と右手を打合はせる。

十四小節（二呼間）

自分一人で拍手一度、次に相手と左手を打合はせる。

十五小節（二呼間）

四つのランニングステップで右へ一廻り。

十六小節（二呼間）

相手と向ひ合つて右足からはつきりとスタンプ三回、半呼間やすみ。

九小節—十六小節（十六呼間）

以上九小節—十六小節迄をくりかへす。

十九 　　リ　　チ　　カ

二列側面圓形

二人は右手を、右生の肩の上でつなぎ、左手を、左生の體前でつなく。

【歩法】

バランス スキップ

【方法】

一小節（四呼間）

各自外側の足から、三步前進跳歩。

二小節（四呼間）

内側の足から、同様に行ふ。

三小節（四呼間）

外側の足から、前と後とへバランス。この時のバランスは一呼間でステップ、クローズをし二呼間はステップのみする。

四小節（四呼間）

跳んで右足前、左足後に交叉し、右臂を外側にして兩臂を體前に交叉する。掌は體の方に向ける。次に、跳んで足を左右に開くと共に、掌を上にして臂を側方にあげ、跳んで兩足を揃へると共に、手を腰にとり、四呼間はそのまま休む。

五小節—八小節（十六呼間）

内側の足から始めて一小節—四小節の運動を繰返す。

九小節（四呼間）

二人は向きあひ、各左に二つ側歩を行ふ。

十小節（四呼間）

四小節と同様の動作をする。

十一小節—十二小節（八呼間）

九小節—十小節の運動を繰返し行ひ、次の伍の者と向きあふ。

十三小節（四呼間）

新しい相手と右肘をくみ、左臂を上へ伸し、互に見合ひながら、スキップで一廻する。

十四小節（四呼間）

二人は向ひ合つて、四小節と同様の動作を行ふ。

十五小節—十六小節（八呼間）

十三小節—十四小節の運動を繰返して行ふ。

終りに、最初の姿勢にかへる。

二〇 ワルソヴィーナ

二人一組二列圓形又は人數の都合では弧でもよいし二列縱隊でもよい。

【歩法】

マヅルカステップ ワルツステップ

【方法】

偶數は右、奇數は左。

奇數の者は右手を偶數のものゝ後にまはして、右の腰の所に軽くふれ、左手は自分の左

腰にとる。

偶數の者は、其の左手を奇數のものゝ右肩にかけ、右手でスカートを持つ。

第一段

一小節（三呼間）

偶數の者は奇數の者の後から押され乍ら右足から駈歩で奇數の前を通つて奇數の左側に出る。

この時奇數生は左足から駈歩足踏、左手を偶數生の後にまはし、右手を腰にとる。偶數生は右手を奇數生の右肩におき左手でスカートを持つ。

二小節（三呼間）

偶數生も奇數生も各外側の足を斜前に出して踵を床につけて足先を上にもむけ、そのまゝの姿勢を保つ。

三小節（三呼間）

偶數生は一小節と同じ動作を、左足からはじめて來た道を通つて元の位置にかへる。

この時奇數生は右足から足踏を行ふ。

四小節(三呼間)

各外側に當る足を、二小節の時と同じ様に斜前に出し、踵を床につける、手は最初の出發の時と同様にかへる。

五小節—八小節(十二呼間)

一小節から四小節までをもう一通りくりかへす。

第二段

九小節(三呼間)

各外側の足から、マヅルカステップで前に一つだけ進む。(手は第一段の出發の時と同じ)

十小節(三呼間)

九小節と同様のステップを行ふ。

十一小節(三呼間)

一小節と同様の方法で、偶數生が位置をかへる。

十二小節(三呼間)

二小節と同様の動作を行ふ。

十三小節—十四小節(六呼間)

マヅルカステップで前進。

十五小節—十六小節(六呼間)

十一小節—十二小節と同様の動作を行つて元の位置にかへる。

第三段

十七小節—二十四小節迄(二十四呼間)

ワルツのターンを行ふ。

然しターンは可成難しいので多少變化させ、偶數と奇數が向ひ合ひになり、第一・第二段に於て進んだ方向にワルツで進ませるもよし。

二二 アイリッシュユリルト

自由配列

【方法】

第一段

一小節（二呼間）

左足にてホップし、右足を前に挙げ、その高さのまま、横に持つてくる。

二小節（二呼間）

右足でホップを二つし、左足は軽く後に曲げる。

三小節—四小節（四呼間）

一—二小節と同様に、右足ホップにて始める。

五小節—六小節（四呼間）

一—二小節と全く同じ。

七小節—八小節（四呼間）

一でジャンプして兩足を側に開き、二でジャンプして兩足を揃へる。三は、左足でホッ

プして、右脚を前に挙げる、四で前舉した脚を膝から折りまげる。この動作をブレイクといふ。以下各段の終りにこのブレイクが出てくる。

第二段

九小節（二呼間）

左足でホップして右足を前にポイントする。次に左足をホップしながらポイントした場所へ。右足の踵をつける。

十小節（二呼間）

左足をホップしながら、右足をその足元へポイントする。次に、左足でホップしながら右脚を前に挙げる。

十一小節—十二小節（四呼間）

九—十小節と同様に、右足をホップして行ふ。

十三—十四小節（四呼間）

九—十小節と同じ。

十五—十六小節（四呼間）

ブレークを行ふ。

第三段

一小節—二小節（四呼間）

左足でッブして右脚を側、前、側にあげ、四呼間目に足をかへて、右足でホップし、左
脚で軽く後へまげる。

三小節—四小節（四呼間）

一—二小節と同様に、右足ホップで行ふ。

五小節—六小節（四呼間）

一—二小節と全く同じ。

七小節—八小節（四呼間）

ブレークを行ふ。

第四段

九小節—十小節（四呼間）

左足をホップし、右足を右に踵が上向になる様に出してポイントし、ポイントした場所
で踵をつけ、左足の側でポイントをし、右足を前にあげる。

十一小節—十二小節（四呼間）

右足ホップにて、九—十小節と同様に行ふ。

十三小節—十四小節（四呼間）

九—十小節と全く同じ。

十五小節—十六小節（四呼間）

ブレークを行ふ。

第五段

一小節—二小節（四呼間）

左足にてホップし、右足を前にポイントし、ポイントした脚をそのまま前に挙げる。次に右
足を前にステップし、左足を軽く後にまげ、左足を前に挙げる。この時は右足でホップする。

三小節—四小節（四呼間）

右足ホップより始まり、一—二小節と同様に行ふ。

五小節—六小節（四呼間）

一—二小節と全く同じ。

七小節—八小節（四呼間）

ブレードを行ふ。

第六段

九小節（二呼間）

左足でホップして、右足の足先を上に向けて前に出し踵を床につける。

十小節—十二小節（六呼間）

九小節の要領で、左、右、左と前を出す。

十三小節（二呼間）

左足をスタンプする。

十四小節（二呼間）

右足スタンプ。

十五小節—十六小節（四呼間）

左足をスタンプし、十六小節は足は、そのままで臂を斜上に卒直にあげる。

二二二 ヴィンヤード

十二人の一列圓形。

【歩法】

ワルツ スタンプ ランニングステップ

【方法】

一小節—八小節（二十四呼間）

ワルツで、鉞をかつぐ動作をしながら、圓周をあるく。秋空を歩むやうな、ほがらかさをあらはして。

九小節（四呼間）

圓心に向き、しやがんで種子を蒔く爲、土を堀る動作を四回する。

十小節（四呼間）

土をかぶる動作を二回する。

十一小節—十二小節（八呼間）

八—九小節の動作をくりかへす。

十三小節（四呼間）

まいた種子をふみつける爲めスタンプを四つする。

十四小節（四呼間）

ランニングステップで右の方へまはる。

十五小節—十六小節（八呼間）

十三—十四小節の動作をくりかへす。

十七小節（六呼間）

圓心に向ひランニングステップで進む。

十八小節（六呼間）

踵をあげ手をのぼし、中央に假想したぶどうの木になつてゐる實をつむ。はじめの三呼間でとり、あとの三呼間は、左手をかごの形にしてをき、その中へ入れる。

十九小節—二十二小節（二十四呼間）

十八小節の動作をくりかへす。

二十三小節—二十四小節（十二呼間）

かごをみながら、ランニングステップで元の位置にかへる。歸り方は、早くかへつてしまはない様に、曲一杯にかへり、次の時、新しく圓心に向つてステップを踏める様にする。

十七小節—二十四小節（四十八呼間くりかへしの分）

十七—二十四小節の動作をくりかへす。

二十五小節—三十二小節（十六呼間）

相手と向ひあひ、右手をつなぎ、グラウンドチェーンを行ふ。豊作のよろこびを互に祝し

あつてゐるところ。

この時、必ず、一拍目で手をつなぐ様にすること。

二度目に相手と會つたらその場でとまり、右足を右にステップしてカーツイを行ふ。

二十五小節—三十二小節（十六呼間くりかへしの分）

二十五小節—三十二小節と同じ動作を行ふ。

一小節—六小節（十八呼間）

一番は内へ、二番は外へワルツで進む。内圓のものは次第に小さくなる様にすゝむ。

七小節—八小節（六呼間）

一番の圓の者は、各々右手を上にあげ、中央にそれを集めて、手頭を外側に向けて屈げ、左臂を側にあげる。

二番の圓の者は、両手をつなぎ、片足を前に出して、後へずつとそる。

二三 ボルカセリーズ

人数、場所等により適宜配列して行はせる。

【方法】

序曲 一小節—八小節（十六呼間）

第一段

一小節（二呼間）

手を腰にして右足から其の場のボルカステップを行ふ。

このときのボルカは、右足を足尖までよく伸して側方に出し、同時に其の方向に身體を少しく傾ける。次で其の足を左足の側に引付けて體重を右足に移し、一と二で右、左、右と軽い足踏のやうにする。

二小節（二呼間）

浮足の左足を、最初の右足と同様に右側方に伸して、其の場のボルカステップを行ふ。

三小節—八小節（十二呼間）

一—二小節の動作をくりかへし行ふ。

第二段

一小節（二呼間）

右足からボルカステップで前へ進む。同時に右手を腰にとり左臂を側方から上に挙げ、掌を自分の方に向け、手先を心持内方に曲げ、その方を見る。

二小節（二呼間）

左足からボルカで前進、右臂を上 to 挙げる。

三小節—八小節（十二呼間）

一—二小節の動作を繰返して行ふ。

第三段

一小節（二呼間）

右足を伸して右に出す。この時兩臂は側にあげ、上體は稍右に傾け、頭を右に轉じて右方を見る。次に右足を左足の後に交叉させ、稍膝を屈げる。右臂は上にあげ、頭を左に向けて左手を見る。

二小節（二呼間）

手を腰にとつて、右足を元の位置にふみつけ、三と四（右、左、右）で足踏のやうにする。

三小節—四小節（四呼間）

左足から一・二小節と同様の動作を行ふ。

五小節—八小節（八呼間）

一小節—四小節の運動を繰返して行ふ。

第四段

一小節—八小節（十六呼間）

手を腰にとつてボルカステップで後退する。體は運動に従つて向きをかへるが、いつも正面を見ながら行ふ。

第五段

一小節（二呼間）

右足をよく伸ばして右方に出し、右手を右足の上方で上體の中間に挙げ、上體を少しく

其の方向に傾け、其の方を見る。左手は腰にとる。

右足を左足の後に交叉し、膝を少し屈げ、右手を上に乗げ、頭を左にまはして左肩越しに左下方を見る。

二小節（二呼間）

右足を元の位置に踏みつけると同時に、左足を左に出し、左臂を左足の上方に舉げ、上體をその方に傾け、其の方を見る。

三小節—四小節（四呼間）

手を腰にとつて左足からボルカステップ二つで後退する。

五小節—八小節（八呼間）

左足からはじめて、一小節—四小節までの動作を行ふ。

一小節—八小節（十六呼間くりかへしの分）

一—八小節 同じ動作をくりかへす。

第六段

一小節—八小節（十六呼間）

手を腰にとつてボルカステップで後退。

第七段

一小節（二呼間）

手を腰にとつて右足から軽い駈歩で三步前進する。其第一步を特に軽く、大きく跳び出す。

二小節（二呼間）

左足、右足と其の場でリープを行ふ。此の時は振動脚の膝から下を軽く後内方に舉げる。

三小節—四小節（四呼間）

左足からはじめて、一・二小節と同じ要領で行ふ。

五小節—八小節（八呼間）

一—四小節の運動を繰返して行ふ。

第八段

一小節—八小節（十六呼間）

手を腰にとり、ボルカステップで後退。

第九段

一小節—二小節（四呼間）

一小節で、手を腰にして右足を一步前に出し、左足を右足に接近させ、更に右足を前に出す。次の小節で右足で跳ぶと同時に左足を前にあげ、更に右足で跳んで廻れ左をす。そのとき左足を左側から新たな方向にまはす。

三小節—四小節（四呼間）

右足からはじめて前と同様に行ふ。

五小節—八小節（八呼間）

一—四小節の運動を行ふ。

第十段

一小節—八小節（十六呼間）

第一段と同様に行ふ。

二四 ギャザリングピースコーツ

二人一組八人乃至十二人一列圓形。

【歩法】

スリッパ

ランニングステップ

【方法】

第一段

A 1. 一小節—四小節（八呼間）

全生手を繋ぎ、時計の針の方向に（左）スリッパを八つ行ふ。

五小節—六小節（四呼間）

手をはなしランニングステップ四つで、その場で一廻りする。一（ターンシングル）

A 2. 一小節—四小節（八呼間）

全生連手し前と反対(右)の方にスリップ八つを行ふ。

五小節—六小節(四呼間)

右ヘターインシングルを行ふ事A1と同じ。

B1. 一小節—六小節(十二呼間)

左生が圓の内側を時計の針の方向に、スリップで進み乍ら手をつなぎ、十二のスリッ
プを行つて元の位置にかへる。

B2. 一小節—六小節(十二呼間)

右生が出て全く前と同様の動作を行つて元の位置にかへる。

C1. 一小節—二小節(四呼間)

左生が左足から圓心に向つてランニングステップ三つで進み、此三つ目の足を踏つけ
ると同時に頭上で一回拍手する。そして四呼間目で踏替をして後へもどる準備をする。

三小節—四小節(四呼間)

右生が圓心に向つて進み頭上で拍手をする事、踏替を行ふ事、すべて左生の場合と同じ。

この右生が前進すると同時に左生は右足から後へランニングステップで進んで元の位
置にかへる。そして三步目から四歩目へかけて踏替をする。

五小節—六小節(四呼間)

左生が圓心に向つて前進、頭上で拍手する事に同じ、此の時右生は三小節・四小節
で左生がしたと同様の動作で後へ戻る。

七小節—八小節(四呼間)

右生はこのまゝ動作を休み、左生のみ元の位置に戻る。但しこの場合は右へ自轉し乍
らかへるのである。

C2. 一小節—八小節(十六呼間)

C1.の各項と全く同一の動作を右生が先に始め、右生が最後に自轉してもとへ歸る。

第二段

A1. 一小節—四小節(八呼間)

各々其の相手と向ひ合ひ、左肩がすれ違ふ様にして右足から三步のランニングステッ

プを行ひ、反対側の位置即ち相手の元の位置に到り四歩目に踏替をして半廻轉し、もとの位置の方に向き、更に今來た道を通つて左足からランニングステップで元の位置にかへる。

五小節—六小節（四呼間）

全生各自その場で右ヘターニングシングル。第一段のA1の五・六小節と同様の動作。

A 2. 一小節—六小節（十二呼間）

第二段A1と全く同様。

B 1. 一小節—六小節（十二呼間）

第一段B2と同様。

B 2. 一小節—六小節（十二呼間）

第一段B1と同じ。

C 1. 一小節—八小節（十六呼間）

第一段C2と同じ。

C 2. 一小節—八小節（十六呼間）

第一段C1と同じ。

第三段

A 1. 一小節—四小節（八呼間）

右足からスタートしてランニングステップで進み、相手と左腕を組んでまはつて元の位置にかへる。

五小節—六小節（四呼間）

各自右ヘターニングシングル。

A 2. 一小節—四小節（八呼間）

A1と同様の方法で相手と右腕を組む様にまはつて元の位置にかへる。

五小節—六小節（四呼間）

右ヘターニングシングル。

B 1. B 2. C 1. C 2. 何れも第一段のB 1. B 2. C 1. C 2. と同じ。

二五 ツロイカ

圆心を左にして三列の圓形を作り、外方より一・二・三の番號をつけ、三人は手を連ねる。

【歩法】

ランニングステップ

【方法】

一小節—二小節（八呼間）

三人連手して圆心の方に近く、斜左前にランニングステップ八つで進む。

三小節—四小節（八呼間）

外側の方、つまり斜右前に、ランニングステップ八つで前進。

五小節—八小節（十六呼間）

三人が手をつないで圓形をつくりながら、時計の針の方向にランニングステップで進み、十六呼間の終りに手をはなして元の隊形にかへる。

九小節—十小節（八呼間）

左翼生は中央生と右翼生との連手の下をくぐり、右翼生は外側をまはつて位置をかへ、中央生は其の場でむきをかへて、反對側にむく。

この時中央生は兩側ものを各々其の目的の場所に導くやうにして、自分の兩手を交叉させ最後に自分がむきをかへる。

十一小節—十二小節（八呼間）

九小節—十小節と同様の動作を行つて更に向をかへて、反對の位置、即ち元の位置にかへる。そしてはじめのやうに先頭の方を向いて一直線になる。

十三小節—十四小節（八呼間）

三人連手にて先頭の方にランニングステップを八つする。

十五—十六小節（八呼間）

中央生だけがランニングステップを續けて、一つ前の中央生の位置に進む。かうして一回が終る毎に中央生は前進することゝなる。

二六 スコッチ キャップ

六人一組、三人づゝに分れて向ひ合ふ。

【歩法】

ランニングステップ スリップ

【方法】

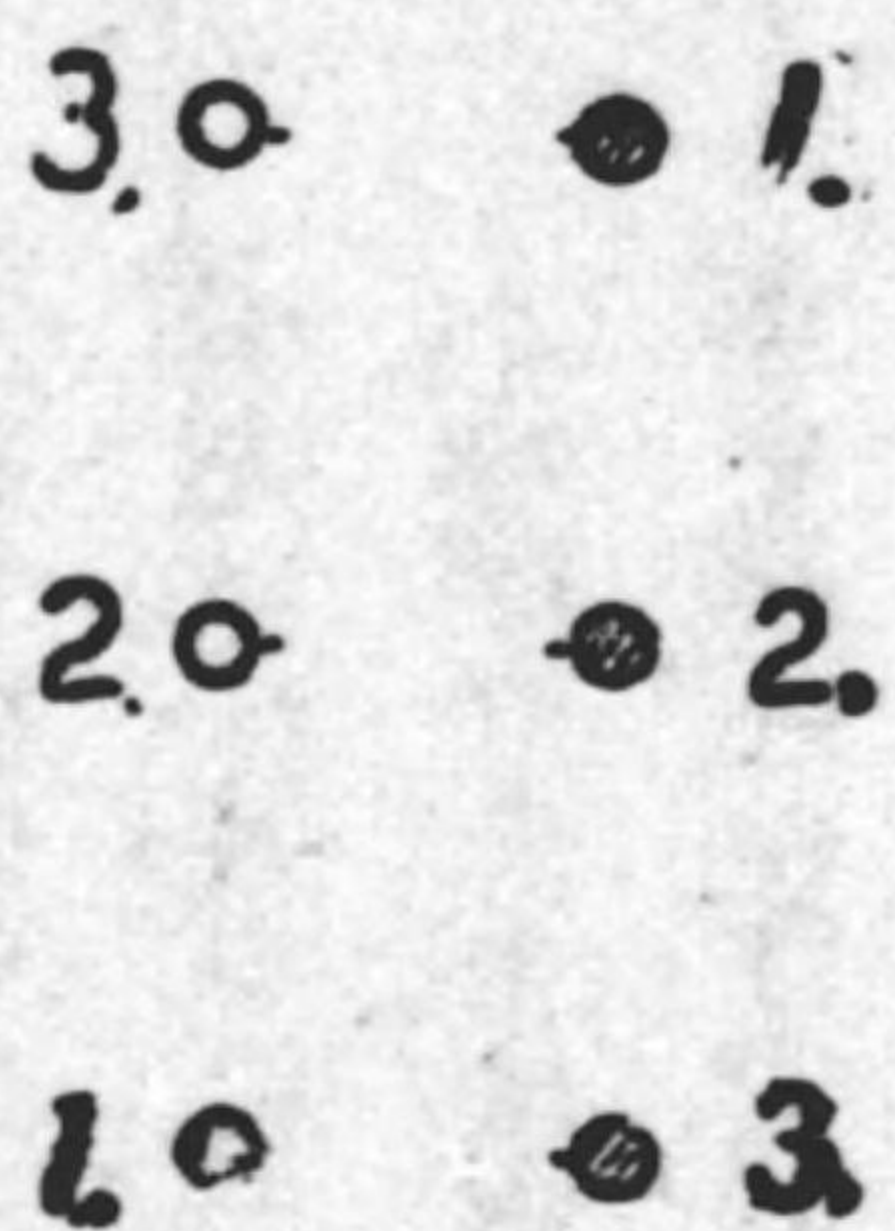
第一段

A 一小節—八小節（十六呼間）

始めると同時に正面に向き、右足よりランニングステップで前に進み、四呼間で踏かへて後向きのまゝ
同歩法で元に戻る、以上を二回行ふ。

B 一小節—八小節（十六呼間）

1.と2.の者がランニングステップで右足から一旦後



に二歩戻つてから前に進み相手と左肩を擦れ合せて位置交換、次に3の者左肩ですれ違つて位置交換。

C 一小節—八小節（十六呼間）

Bと同じ様に1と2が元に戻り、3が次に元に戻る。

第二段

A 一小節—八小節（十六呼間）

右足からランニングステップで相手と左肩を擦れ合せて元に戻る、以上を二回行ふ。

B 一小節—八小節（十六呼間）

1.2.3の三人連手し右足から後へ下り、元に戻る。
次に1と3（同じ組の）2と2は各々右腕を組んで時計の針方にまはる。以上すべてランニングステップ。

C 一小節—八小節（十六呼間）

三人づゝ連手し四呼間で退り、四呼間で前が出る。

次に自分の真前の人と両手を取り合ひ、時計の方向に廻つて自分の位置にかへる、以上ランニングステップ。

第三段

A 一小節—八小節 (十六呼間)

右足からランニングステップで進み、中央で前の人と左腕を組んで廻る、そして元の位置にかへる。

次に左足から出發して中央で右腕を組んで廻り、元の位置に歸る。

B 一小節—二小節 (四呼間)

左側の三人が正面の方へ横向きのまま、でスリップする。

三小節—八小節 (十二呼間)

ランニングステップで1は相手の1と左肩を擦れ合せ次に2と右肩をすれ合せ、3の廻りを一廻りして一番始めの位置に戻る。

2の者は向側の1と右肩を擦れ合せ、2と左肩を擦れ合せ、2の廻りを一廻りして最

初の位置に戻る。

3は極少し前に進み、1を迎へて左肩を軸にして廻る、そして元の位置に戻る。

C 一小節—二小節 (四呼間)

Bの一小節—二小節と同様にスリップで前とは反対の方向に進む。

三小節—八小節 (十二呼間)

Bの三小節以下と同様、唯1と3が、3と1の動作をする事になる、但し右肩を軸にして廻る事になる、肩のすれ合せ方は前と全く反対である。

二七 マヅルカ

多人数の時は數列、數行に、少人数の時は自由に思ひ思ひの位置を占めるもよい。

【歩法】

マヅルカ バランス レドア ボルカ

【方法】

このダンスは序奏なしで、すぐ始めるのであるから、演奏と同時に動き出せる様に、左手を腰にとり、右臂を上を挙げ、左足を浮かし體重を左にかけてをく。

第一段

四回又は二回繰返して行ふ。以下各段同様。

一小節—三小節（九呼間）

左足から側方にマヅルカを三つ行ふ。

四小節（三呼間）

左足を左にステップし、其の足で三度ホップしながら左廻りをする。右脚は後方に舉げる。臂は掌を上にして兩側にあげ、左臂を心持ち後に引いて左廻りを便にする。體はよく伸ばし胸もよくはる。

五小節—八小節（十二呼間）

一—四小節の動作を右足から始めて右方に行ふ。右手腰、左臂上にし、八小節の時は右廻りをする。

第二段

一小節（三呼間）

左足から前にバランス。臂は第一段の終りの姿勢から兩臂を上にもつてゆく。

二小節（三呼間）

右足から後にバランス。臂は掌を上にし兩臂を側にあげる。

三小節（三呼間）

左方にマヅルカ一つ。

四小節（三呼間）

左足からベンド。

五小節—八小節（十二呼間）

一—四小節の動作を右足より行ふ。

第三段

一小節—八小節（二十四呼間）

第一段と同じ動作を向きを換へて行ふ。即ち、一―四小節は右向をして左方（正面）に行ひ、五―八小節は其の反対方向に行ふ。

第四段

一 小節（三呼間）

掌を上にして、兩臂を側にあげ、左方にレドア・ポルカ一つ。

二 小節（三呼間）

右にレドア・ポルカ。

三 小節（三呼間）

右向きになり、左側方に（正面）マヅルカ。

四 小節（三呼間）

再び正面して左方にレドア・ポルカ。

五 小節―八小節（十二呼間）

一―四小節の動作を右足から行ふ。

九小節―十六小節（二十四呼間）

一―八小節の動作を行ふ。

第五段

一 小節（三呼間）

左にベンド。

二 小節（三呼間）

右にベンド。

三 小節（三呼間）

右向きになり左方にマヅルカ。

四 小節（三呼間）

アラベスク・ホップを其の場で三回行ふ。

五 小節―八小節（十二呼間）

一―四小節の動作を右より始める。

一小節—七小節（くりかへしの分）

前同様に行ふ。

八小節（三呼間）

左足で踏み切つて跳び上り、右足から跳び下り、續いて左足を右足の前におき、膝を少し屈げ、體を稍前に傾ける。直ちに膝を伸ばし體を起す。終りに爪立姿勢となる。臂は跳ぶと同時に側方から前下方に運び、物を捧げてゐるやうに兩手を揃へ、膝と體が伸びるに従ひ、其のまゝの形を胸の邊まで持つてゆく。但し、四回繰返して行ふ時には、その最後の時にのみこの運動を行ふ。

二八 グリーディング

自由配列 但し運動場の一角にやゝ密集した一團となつて集る。

【歩法】

ワルツラン ワルツターン

【方法】

A

1. 一小節—四小節（十二呼間）

右足からワルツステップ四つで前進する。但し此の場合最初のステップをリープに代へ、次のステップとクローズを駈歩で行ふ様に變化させる。右足でリープを行つた場合は手は兩方とも右にあげる。

2. 五小節—八小節（十二呼間）

右足から右の方へワルツでターンをする。一回のターンで百八十度づゝまはる。結局二回のターンによつて元のむきになれば良い。故に此の場合はターンを四回して二廻轉する事になる。右足からターンを始める時は右臂を上にあげ、左肩を十分下にさげる様にし、左足から始める時は左臂を上にあげ、右肩を下にさげる様にする。

一小節—四小節（くりかへし十二呼間）

1の動作をくりかへす。

五小節—八小節（くりかへし十二呼間）

2の動作をくりかへす。

B

1. 九小節（三呼間）

斜右前に右足から三步進み、三步目の足即ち右足に體重を移し、右足は後に足先のみ床につけて立つ。この動作に伴つて右臂を斜前から除々に上にあげる。

2. 十小節（三呼間）

體重は1のまゝに保ち、右手を以て大勢の人々によびかける動作をする。

3. 十一小節—十二小節（六呼間）

1、2と同様の動作を斜左前に行ふ。但しこの場合は左足からはじめて、左臂を以て行ふのである。

4. 十三小節—十六小節（十二呼間）

Aの2の動作をくりかへす。

5. 九小節—十二小節（くりかへし十二呼間）

Bの1、2、3の動作をくりかへす。

6. 十三小節—十四小節（くりかへし六呼間）

右足より始めてワルツのターンを二つして一廻轉する。

7. 十五小節—十六小節（くりかへし六呼間）

小走りで前方に進み、最後の小節で止つて足先で立ち、兩臂を斜上にのばして、歓迎の意を表す。

二九 クワドリル

二列を作らせる。各列は七歩位の間隔で向ひあひ、更に二人宛一組（伍）となり向合つた組（四人）で新たに一組を作り、一番二番を定めておく。一番二番の定め方には色々あるが、身長最高の人を右翼に置いた方の列の組が一番とするが便である。

【歩法】

ギャロップウオーキングステップ。

【方法】

第一段

一小節—二小節（四呼間）

各自伍の人と禮をする。禮の仕方は、體重を左足に託して、右足を右に滑らせて體重を之に託し、左足を右足の側から後に引き、之に體重を移し、兩膝を屈けて腰を下げ、體を少し前に傾ける。

三小節—四小節（四呼間）

元の位置にかへり、終りに隣伍の人と向き合ひ、

五小節—六小節（四呼間）

隣伍の人と禮をする。但し列の兩端の人は各々兩端に於ける自組の人とする。

七小節—八小節（四呼間）

元の位置にかへり、各々自伍の人と右手をとる。

九小節—十六小節（十六呼間）

一番と二番とが進んで位置を換へる。兩列間の中央で出合つたときは、各右生が相手の間を通り、左生は相手の右生の左を通る。而して反對側へ行つても、右生は常に右生の位置になるやうに終りに廻旋する。同様にして元の位置にかへる。之を「位置交換」といふ。

十七小節—二十四小節（十六呼間）

自伍の者と向き合ひ、各自伍の者に注意しながら右斜前方に右足から三步進み、次で左足を右足に軽く引付け、次に左足から同様の方法で元の位置にかへる。さうして互に兩手をつないで左に一廻りする。之を「セット・エンド・ターン」といふ。

二十五小節—三十二小節（十六呼間）

各右生は少し左に避けて前に進み、相手方の右手をとつて尙進み、次で其の手を離し、相手の左生と、左手をつないで一廻りし、次に其の手を離し、續いて同方法により元の位置にかへり、自伍の者と一廻りする。左生は右に向いて絶えず大きく左廻りをしてゐ

る。之を「レディース・チェーン」といふ。

注意

十七小節—二十小節（八呼間）

自伍の者と向き合つて、右手を上にして、右手と右手、左手と左手とを組み、ギャロップ四歩で互に避けて相手方の位置に進み、左手を離し、ウォーキングステップで位置交換の終り頃の要領で相手方の位置につく。

二十一小節—二十四小節（八呼間）

「位置交換」の方法で元の位置へかへる。九小節以下の方法を繰返して行ふ。

第二段

一小節—八小節（十六呼間）

序奏。

九小節—十二小節（八呼間）

一番の右生と二番の左生とは右足から右斜に三步進み、四で左足尖を右足に引寄せる。次で左足から三步で元の位置にかへり、四で右足を左足に引寄せる。以下この方法を

「前へ、後へ」と呼ぶ。

十三小節—十六小節（八呼間）

一番の右生と二番の左生とは、互に左によつて位置交換をする。最後に相手に後を向けぬやうにして廻轉する。

十七小節—二十四小節（十六呼間）

交換した位置に於て、九—十六小節の動作を繰返して行ひ、終りに元の位置にかへり、自伍の者と向きあふ。

注意

一小節—八小節（十六呼間）

各自伍の者と「セット・エンド・ターン」をする。

九小節以下

一番の左生、二番の右生から始め、前同様の運動を繰返して行ふ。

第三段

一小節—八小節（十六呼間）

第四章 行進遊戯

序奏。

九小節—十六小節（十六呼間）

一番の右生と二番の左生とは、各少し左に避けて進み、右手を軽くかつて廻旋し、終りに各自右に二分の一廻轉をする。次で左手に持ちかへて前と反対の方向に廻旋し、終りに自伍の者と右手を取り一線の列となる。

十七小節—二十小節（八呼間）

各右足から四回のバランスをする。

バランスとは、右（左）足を半歩右（左）に出し、體重を之に移し、左（右）足尖を右（左）踵の後に運び、兩膝を少しく屈げるのをいふ。

二十一小節—二十四小節（八呼間）

一番、二番の各對は相手との手を離し、各反対側にゆく。その際、各自伍の者に後を見せぬやうに注意して行ふ。そして右生は終りに左生の右側に位置する。

二十七小節—三十小節（八呼間くりかへしの分）

一番の右生と二番の左生とは、「前へ、後へ」をする。

二十一小節—二十四小節（八呼間くりかへしの分）

同人は少し左に避けて前に進み背中合せとなり右方から後進して元の位置にかへる。

二十五小節—二十八小節（八呼間）

一番及び二番は「前へ、後へ」を行ふ。

二十九小節—三十二小節（八呼間）

一番と二番とは「位置交換」をなす。

九小節以下の曲にて、一番の左生と二番の右生とから動作をはじめて、元の位置にかへる。

第四段

多人數で行ふ時は、第一の組は一番から、第二の組は二番からといふ風に筋違ひの伍から運動をはじめるとよい。

一小節—八小節（十六呼間）

序奏。

九小節—十二小節（八呼間）

一番は「前へ、後へ」を行ふ。

十三小節—十六小節（八呼間）

一番伍は前へ進み、その左生は右生を反対側の左生に渡す。右生は左廻りをして二番の左生の左側にならぶ。二番の左生は其の右手を二番右生の右手と、左手を一番の右生と、何れも體前に於てつなく。

十七小節—十八小節（四呼間）

一番の右生は後へ進み、元の位置にかへり、三人は前に進む。

十九小節—二十小節（四呼間）

三人は後へ退く。

二十一小節—二十二小節（四呼間）

三人は前へ進む。

二十三小節—二十四小節（四呼間）

兩右生は一廻りして一番の左生の兩側にゆく。

二十五小節—二十八小節（八呼間）

三人は前へ進み、二番の右生は元の位置にかへる。三人は後へ退く。

二十九小節—三〇小節（四呼間）

三人は前へ進む。

三十一小節—三十二小節（四呼間）

四人は軽く會釋して連手して圓形をつくる。

注意

一小節—四小節（八呼間）

四人はギャロツプで四歩左へまはり次でウォーキングステップで反対側にゆく。

五小節—八小節（八呼間）

「位置交換」を行ひ、元の位置へかへる。

九小節以下

二番から運動を行ひはじめ、同様の方法を繰返す。